

令和6年度
香 川 県
歯の健康と医療費に関する実態調査
報告書

令和7年3月

香川県
公益社団法人 香川県歯科医師会

共同研究 監修：香川大学名誉教授 真鍋芳樹
協力 香川県国民健康保険団体連合会
香川県後期高齢者医療広域連合

目 次

I	後期高齢者歯科健診受診者の口腔状況等について	1
一	調査の概要	1
1	分析目的、対象者および分析方法	1
二	調査・分析結果	2
(1)	後期高齢者歯科健診受診者の概要	2
(2)	後期高齢者歯科健診受診者の問診票回答状況	3
(3)	後期高齢者歯科健診受診者の口腔状況	13
	まとめ・考察	37
II	歯科問診項目問4「かかりつけの歯科医院がありますか」の回答状況別医科医療費	42
一	調査の概要	42
1	分析目的、対象者および分析方法	42
二	調査・分析結果	43
(1)	後期高齢者歯科健診問4「かかりつけの歯科医院がありますか」の 回答状況別医科医療費	43
	まとめ・考察	44
III	現在歯数別における機能歯数と医科医療費の関係	46
一	調査の概要	46
1	分析目的、対象者および分析方法	46
2	分析対象者の分類	46
3	分析の視点	46
二	調査・分析結果	47
(1)	現在歯数分類別に区分1～4間の医科医療費の比較：分析1	47
①	分析対象者数	47
②-1	現在歯数分類別に区分1～4間の医科医療費の比較(男性75歳)	48
②-2	現在歯数分類別に区分1～4間の医科医療費の比較(男性80歳)	49
②-3	現在歯数分類別に区分1～4間の医科医療費の比較(女性75歳)	50
②-4	現在歯数分類別に区分1～4間の医科医療費の比較(女性80歳)	51
(2)	機能歯数28歯以上者を対象に現在歯数分類間の医科医療費の比較：分析2	52
①	分析対象者数	52
②-1	機能歯数28歯以上者を対象に 現在歯数分類間の医科医療費の比較(男性75歳)	53
②-2	機能歯数28歯以上者を対象に 現在歯数分類間の医科医療費の比較(男性80歳)	54
②-3	機能歯数28歯以上者を対象に 現在歯数分類間の医科医療費の比較(女性75歳)	55
②-4	機能歯数28歯以上者を対象に 現在歯数分類間の医科医療費の比較(女性80歳)	56
	まとめ・考察	57

Ⅰ 後期高齢者歯科健診受診者の口腔状況等について

一 調査の概要

1 分析目的、対象者および分析方法

我が国では超高齢社会に突入し、平均寿命が進展する一方で健康寿命の延伸という高齢者の健康維持が課題となっている。近年、歯周病等の口腔疾患や歯数と全身の健康状態には密接な関連があることが明らかになってきたことから、歯科健診等による歯科口腔保健事業は健康寿命の延伸に寄与する可能性があり、さらなるエビデンスの構築が求められている。

香川県歯科医師会では、香川県後期高齢者医療広域連合から委託を受けて後期高齢者歯科健診を実施している。この健診は、歯・歯肉の状態や口腔衛生状態、口腔機能低下の恐れのある高齢者をスクリーニングし、詳しい検査や治療等につなげることで、口腔機能の維持・向上、全身疾患の予防等の実現を目指している。

そこで、本分析では、後期高齢者歯科健診受診状況や受診者の口腔状況、口腔保健に関わる問診項目の回答状況を整理した上で、高齢者の口腔機能と全身の健康との関わりについての研究に繋げる基礎資料とする事を目的とした。

調査対象は、香川県後期高齢者医療広域連合および香川県国民健康保険団体連合会の協力を得て入手した令和3、4、5年度に75歳と80歳を対象として実施した後期高齢者歯科健診結果とした。

3ヵ年の回答をまとめて、性・年齢別(男性75歳、男性80歳、女性75歳、女性80歳)の4分類で集計した。なお、各項目の無回答は除外して集計した。

香川県後期高齢者歯科問診票および健診票

令和3年度香川県後期高齢者歯科問診票

氏名： _____ 記入日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

生年月日： _____ 年 _____ 月 _____ 日 身長： _____ cm 体重： _____ kg

◆該当する番号を○で囲んでください。

Q1. 現在、ご自分の歯や口の状態に気になることはありますか？	1. 噛み具合 4. 口臭 7. 歯科治療を中断している 9. その他 ()	2. 口元や前歯の見た目 5. 歯茎や歯の痛み 8. 義歯 (入れ歯) の具合がわるい 10. 特になし	3. 話しにくい 6. 飲み込みにくい
Q2. 入れ歯を使っていますか？ (1つでも使っている場合は「1」を選んでください)	1. 使っている 2. 持っているが使っていない 3. 持っていない		
Q3. 自分の歯または入れ歯で左右の奥歯をしっかりと噛みしめられますか？	1. はい 2. いいえ		
Q4. かかりつけの歯科医院がありますか？	1. はい 2. いいえ		
Q5. 年に1回以上は歯科医院で定期健診を受けていますか？	1. はい 2. いいえ		
Q6. 次のいずれかの病気で治療を受けている、もしくは過去3年以内に治療を受けたことがありますか？	1. 高血圧 2. 糖尿病 3. 脳卒中 4. 心臓病 5. がん 6. 肺疾患(肺炎含む) 7. 骨粗鬆症 8. その他 () 9. 特になし		
Q7. 現在、1日に内服している飲み薬は何種類ありますか？ (サプリメント、市販薬を除きます) (お薬手帳があればお見せください)	1. () 種類 2. なし		
Q8. たばこを吸っていますか？	1. はい 2. いいえ		
Q9. 1日2回以上歯をみがいていますか？	1. はい 2. いいえ		
Q10. 歯間ブラシまたはフロス(糸ようじ)を使っていますか？	1. はい 2. いいえ		
Q11. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか？	1. はい 2. いいえ		
Q12. お茶や汁物等でむせることがありますか？	1. はい 2. いいえ		
Q13. 口の渇きが強くなりますか？	1. はい 2. いいえ		
Q14. 週1回以上は外出していますか？	1. はい 2. いいえ		
Q15. 過去半年間で2～3kg以上の体重減少がありましたか？	1. はい 2. いいえ		
Q16. 過去半年間で発熱(37.8度以上)はありましたか？	1. はい 2. いいえ		

記入漏れがないかご確認ください。

令和3年度香川県後期高齢者歯科健診票 [県歯送付用]

香川県後期高齢者医療広域連合

健診日： _____ 年 _____ 月 _____ 日 健診結果は、香川県後期高齢者医療広域連合や各市町の保健事業に活用します。

フリガナ _____ 氏名 _____ 男・女 _____ 生年月日 _____ 明・大・昭 _____ 年 _____ 月 _____ 日 (歳)

TEL () - _____

住 所 _____ 被保険者番号 0 _____

※記入漏れのないようご注意ください

■歯の状態、咬合の状態

(デンチャー部位など記載欄)

右	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	左
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(デンチャー部位など記載欄)

■歯の状態、咬合の状態

現在歯数 [ノ+C(C.除く)+□] () 本 うち未処置歯数 () 本 (・機能歯数) () 本

※機能歯 = 現在歯 (ノ+C(C.除く)+□)+義歯(FD,PD)+ボンディング(Po)+インプラント(Im)
(歯冠があるものは対応歯がなくとも機能歯とする) また機能歯数の算出の場合、動揺度3の歯は除く

未処置歯のうち歯周病 (0:無 1:有) 有の場合 () () 本

・義歯の有無 (0:無 1:有)

・義歯の部位 上顎 (0:総義歯 1:局部 2:なし) 下顎 (0:総義歯 1:局部 2:なし)

・義歯の状況 有の場合、適合状況 (0:良好 1:義歯不適合 2:義歯破損)

・インプラント (0:無 1:有)

・咬合の状態 右側 (0:現在歯と現在歯 1:現在歯と義歯 2:義歯と義歯 3:なし)
左側 (0:現在歯と現在歯 1:現在歯と義歯 2:義歯と義歯 3:なし)
前歯 (0:現在歯と現在歯 1:現在歯と義歯 2:義歯と義歯 3:なし)

総合判定 0:良好 1:普通 2:要注意 ()

※問診票Q2、Q3、Q11と口腔内所見 [咬合の状態] を参考に判定する

■口腔内衛生状況 〆ブラーク (0:ほとんどない 1:中程度 2:多量) 舌苔 (0:ほとんどない 1:中程度 2:多量) 口臭 (0:ほとんどない 1:中程度 2:多量)

※総歯数の場合 フラワーテストについて 歯周病の状況 (0:良好 1:普通 2:不良)

歯周病の状況 (0:良好 1:普通 2:不良) 歯周病以外の所見あり ()

■歯肉機能 0:良好 1:普通 2:要注意 ()

※問診票Q11と口腔内所見 [咬合の状態] を参考に判定する

■歯槽の状態 (付与/7/7/7/7/7) 0:良好 (6回以上/月) 1:要注意 (6回未満/月) 2:未実施 (その理由)

※付、タ、カをそれぞれ一定時間 (5秒間や10秒間等) に着る回数測定し、1秒間当たりに着る回数に換算して判定する
付、タ、カのいずれか1つでも6回未満/秒の場合、【要注意】とする

■歯槽下機能

・反復唾液導下テスト 0:3回以上/30秒 1:3回未満/30秒 2:未実施 (その理由)

※30秒間に入れた空導下の回数測定するものであり、3回未満/30秒の場合、【要注意】とされる

・唾液導下 0:良好 1:普通 2:要注意 ()

※問診票Q12と反復唾液導下テストの結果を参考に判定する

■口腔乾燥 (問診票Q13参照) (0:正常 1:軽度～中等度 2:重度)

■粘膜炎の異常 0:なし 1:あり ()

健診結果 (該当する結果全てに○を記入してください)

1) 問題なし
2) 問題あり

※要指導: □ 義歯管理 □ 咀嚼機能 □ 滑舌の状態 □ 嚥下機能
□ 口腔乾燥 □ 口腔清掃 □ その他 ()

※要治療・要精密検査: □ 舌炎 □ 義歯 □ 口腔乾燥 □ 口腔清掃
□ 咀嚼機能 □ 滑舌の状態 □ 嚥下機能
□ 粘膜炎の異常 □ 歯肉組織の異常

□ その他特記事項 ()

診療所名・院長名 _____

二 調査・分析結果

(1) 後期高齢者歯科健診受診者の概要

令和3年度から令和5年度の健診対象者数と健診受診者数を示す。

健診対象者総数は69,793人で、健診受診者は14,667人だった。

健診受診率はトータル21%だった。

年齢・性別受診率は、女性75歳が33.7%と最も高く、ついで女性80歳の25.6%だった。

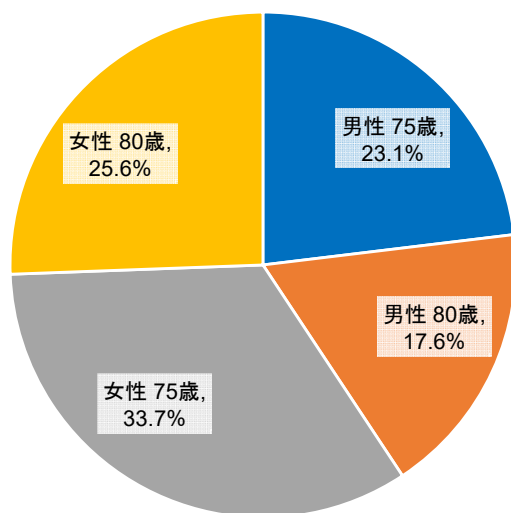
男女とも75歳に比べて80歳で受診率は低下した。

・調査対象者数、健診受診者数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	計
健診対象者	17,922	24,324	27,547	69,793
健診受診者	3,556	5,247	5,864	14,667
受診率	19.8%	21.6%	21.3%	21.0%

・性別年齢構成

性別	年齢別	人数	構成割合
男性	75歳	3,386	23.1%
	80歳	2,583	17.6%
女性	75歳	4,946	33.7%
	80歳	3,752	25.6%
総 数		14,667	100.0%



(2)後期高齢者歯科健診受診者の問診票回答状況

Q1 気になっている口腔症状

「噛み具合」については、男女とも 75 歳 12%台、80 歳 14%台と、80 歳の割合が 75 歳に比べて高かった。

「口元や前歯の見た目」については、男性約 5%、女性約 10%と女性の割合が男性に比べて約 2 倍高かった。

「話しにくい」については、年齢、性別に関係なく約 4%前後であった。

「口臭」については、女性 75 歳の割合が 12.9%と他の群に比べて高かった。また、女性の方が男性よりその割合が高かった。

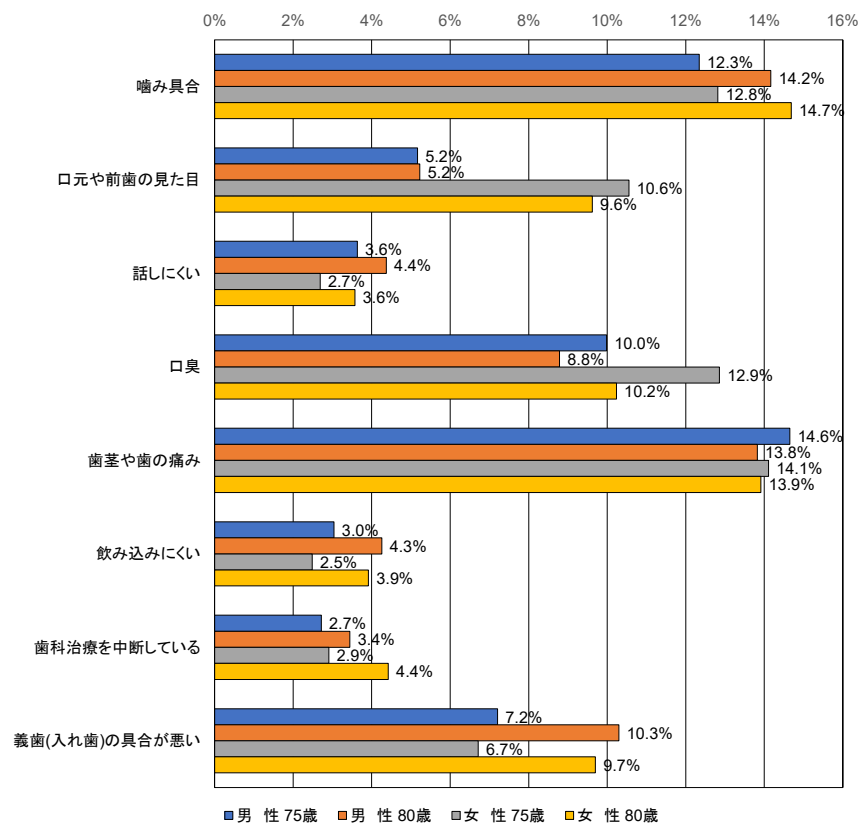
「歯茎や歯の痛み」については年齢、性別に関係なく 14%前後であった。

「飲み込みにくい」については、年齢、性別に関係なく 4%前後であった。

「歯科治療を中断している」については、年齢、性別に関係なく 4%前後であった。

「義歯(入れ歯)の具合が悪い」については、75 歳男女とも約 7%、80 歳男女とも約 10%と 80 歳の割合が 75 歳に比べて高かった。

現在、ご自分の歯や口の状態で 気になることはありますか	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
噛み具合	418	366	634	551	12.3%	14.2%	12.8%	14.7%
口元や前歯の見た目	175	135	522	361	5.2%	5.2%	10.6%	9.6%
話しにくい	123	113	133	134	3.6%	4.4%	2.7%	3.6%
口臭	338	227	636	384	10.0%	8.8%	12.9%	10.2%
歯茎や歯の痛み	496	357	698	522	14.6%	13.8%	14.1%	13.9%
飲み込みにくい	103	110	123	147	3.0%	4.3%	2.5%	3.9%
歯科治療を中断している	92	89	144	166	2.7%	3.4%	2.9%	4.4%
義歯(入れ歯)の具合が悪い	244	266	332	364	7.2%	10.3%	6.7%	9.7%
その他	249	168	424	263	7.4%	6.5%	8.6%	7.0%
特になし	1,637	1,190	2,149	1,593	48.3%	46.1%	43.4%	42.5%

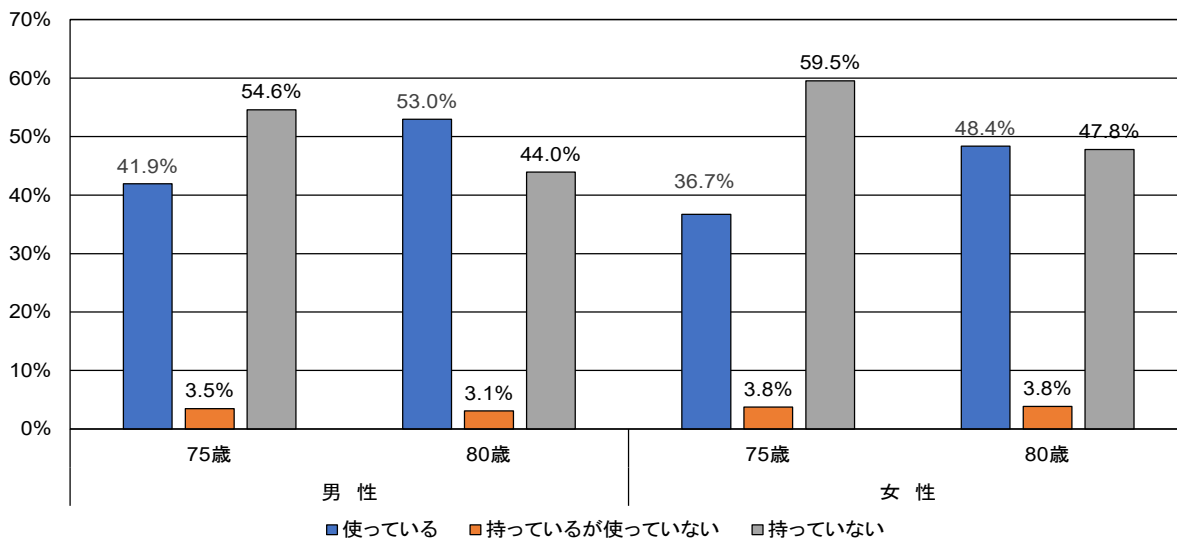


Q2 入れ歯使用状況

「使っている」との回答は、男女とも 75 歳 40%前後、80 歳 50%前後と 80 歳の割合が 75 歳に比べて高かった。

「持っているが使っていない」との回答は、年齢、性別に関係なく 3%台であった。

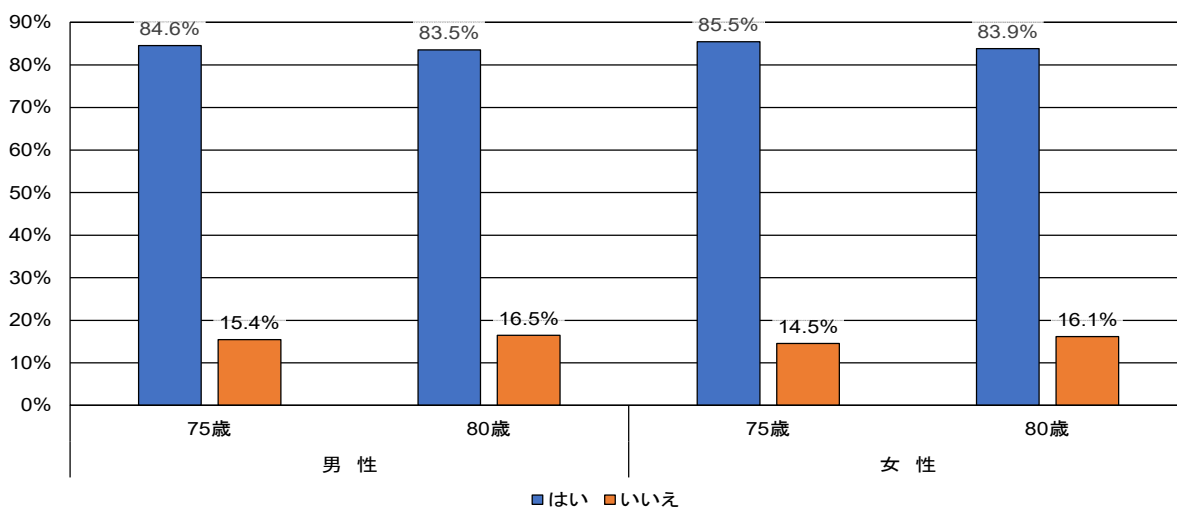
入れ歯を使っていますか？	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
使っている	1,387	1,332	1,778	1,763	41.9%	53.0%	36.7%	48.4%
持っているが使っていない	115	77	182	140	3.5%	3.1%	3.8%	3.8%
持っていない	1,806	1,105	2,885	1,743	54.6%	44.0%	59.5%	47.8%



Q3 奥歯でかみしめられるか

「はい」との回答が、年齢、性別に関係なく 85%前後であった。

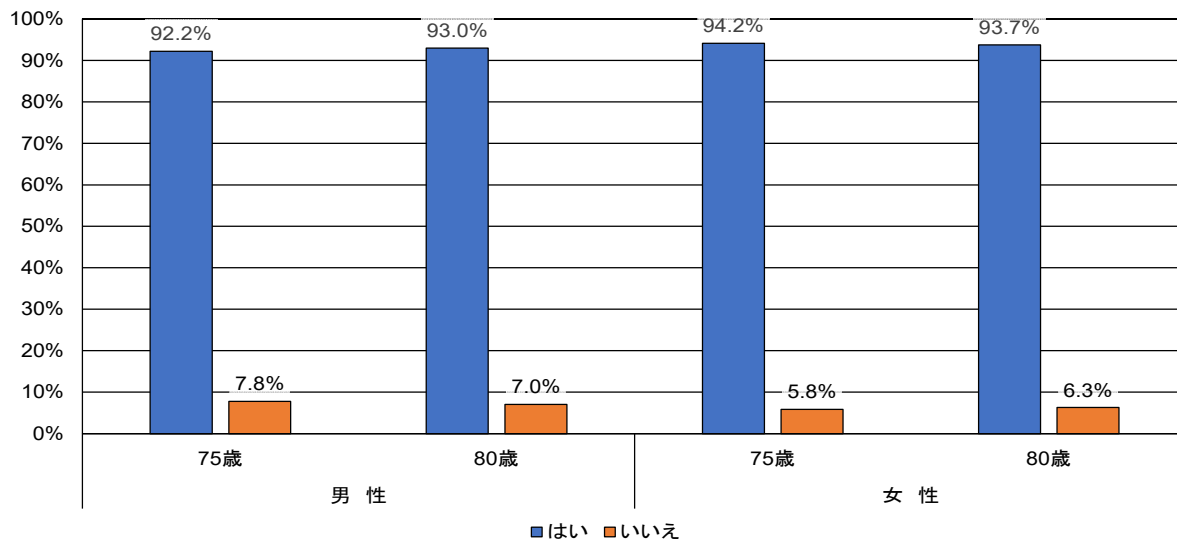
自分の歯または入れ歯で左右の奥歯をしっかりとかみしめられますか？	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
はい	2,786	2,097	4,101	3,008	84.6%	83.5%	85.5%	83.9%
いいえ	509	413	698	579	15.4%	16.5%	14.5%	16.1%



Q4 かかりつけ歯科医院の有無

「はい」との回答が、年齢、性別に関係なく 93%前後であった。

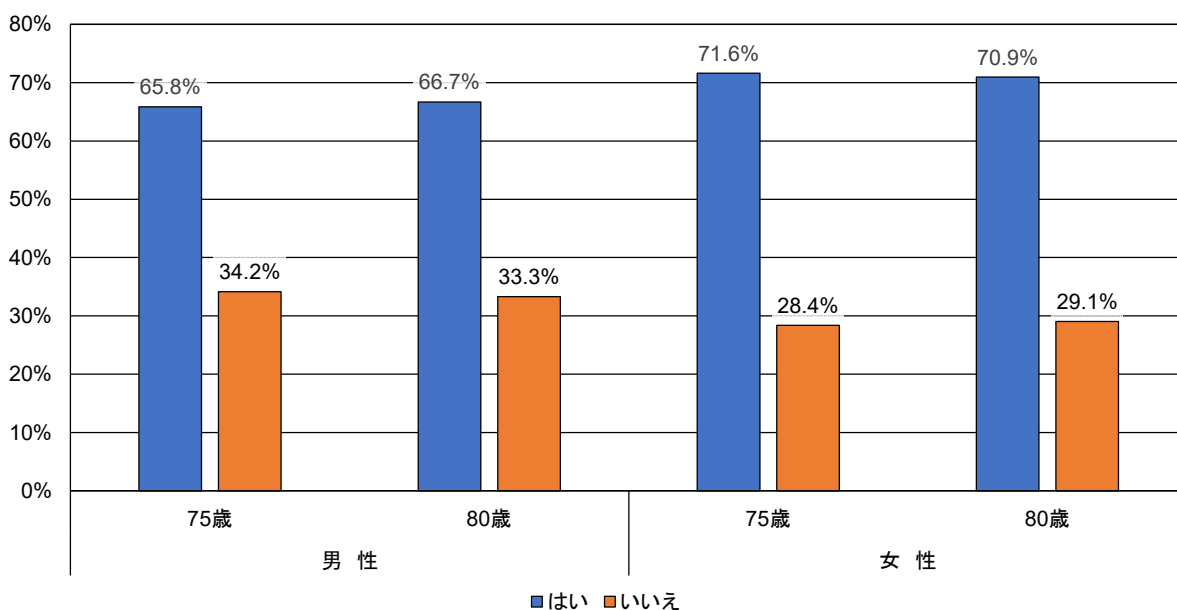
かかりつけの歯科医院がありますか？	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
はい	3,079	2,357	4,591	3,463	92.2%	93.0%	94.2%	93.7%
いいえ	260	178	285	232	7.8%	7.0%	5.8%	6.3%



Q5 定期歯科健診の有無

「はい」との回答は、男性 66%前後、女性 71%前後で女性の割合が男性より高かった。

年に1回以上は歯科医院で定期健診を受けていますか？	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
はい	2,183	1,662	3,430	2,530	65.8%	66.7%	71.6%	70.9%
いいえ	1,133	830	1,359	1,036	34.2%	33.3%	28.4%	29.1%



Q6 有病状況

「高血圧」については、性別では 45%前後と同程度であった。年齢別では、女性 75 歳が 42.6%、女性 80 歳が 48.4%と 80 歳の方が高かった。一方、男性は 45%台と同程度であった。

「糖尿病」については、性別では、男性の方が女性より割合が高く、約 1.6 倍の差があった。年齢別では、男性は 75 歳 20%、80 歳 17.8%と 75 歳の方が高かった。一方、女性は約 12%と同程度であった。

「脳卒中」については、性別では、男性が 2%台、女性が 1%前後と、男性の方が女性より高かった。年齢別では男女とも同程度であった。

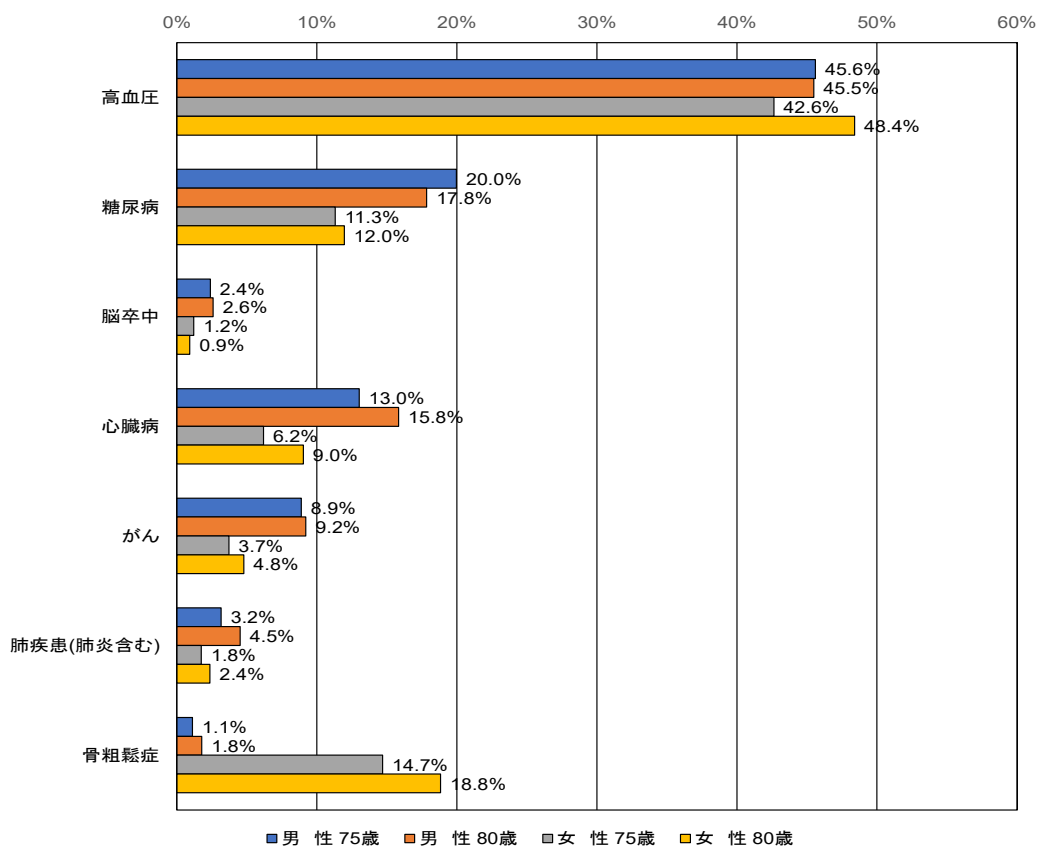
「心臓病」については、性別では男性が 10%台、女性は 10%未満と男性の方が高かった。年齢別では男女とも 80 歳の方が高かった。

「がん」については、性別では、男性が 9%前後、女性は 4%前後と男性の方が高かった。年齢別では男女とも 80 歳の方が高かった。

「肺疾患」については、性別では男性が 4%前後、女性が 2%前後と男性の方が高かった。年齢別では男女とも 80 歳の方が高かった。

「骨粗鬆症」については、性別では、男性 1.1～1.8%、女性 14.7～18.8%と女性の割合が男性に比べて約 10 倍高かった。年齢別では男女とも 80 歳の方が高かった。

次のいずれかの病気で治療を受けている、もしくは過去3年以内に治療を受けたことがありますか？	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
高血圧	1544	1175	2109	1816	45.6%	45.5%	42.6%	48.4%
糖尿病	676	461	560	449	20.0%	17.8%	11.3%	12.0%
脳卒中	81	67	60	35	2.4%	2.6%	1.2%	0.9%
心臓病	441	409	306	339	13.0%	15.8%	6.2%	9.0%
がん	301	238	184	180	8.9%	9.2%	3.7%	4.8%
肺疾患(肺炎含む)	107	117	87	89	3.2%	4.5%	1.8%	2.4%
骨粗鬆症	38	46	727	707	1.1%	1.8%	14.7%	18.8%
その他	556	435	1021	682	16.4%	16.8%	20.6%	18.2%
特になし	708	521	1248	728	20.9%	20.2%	25.2%	19.4%



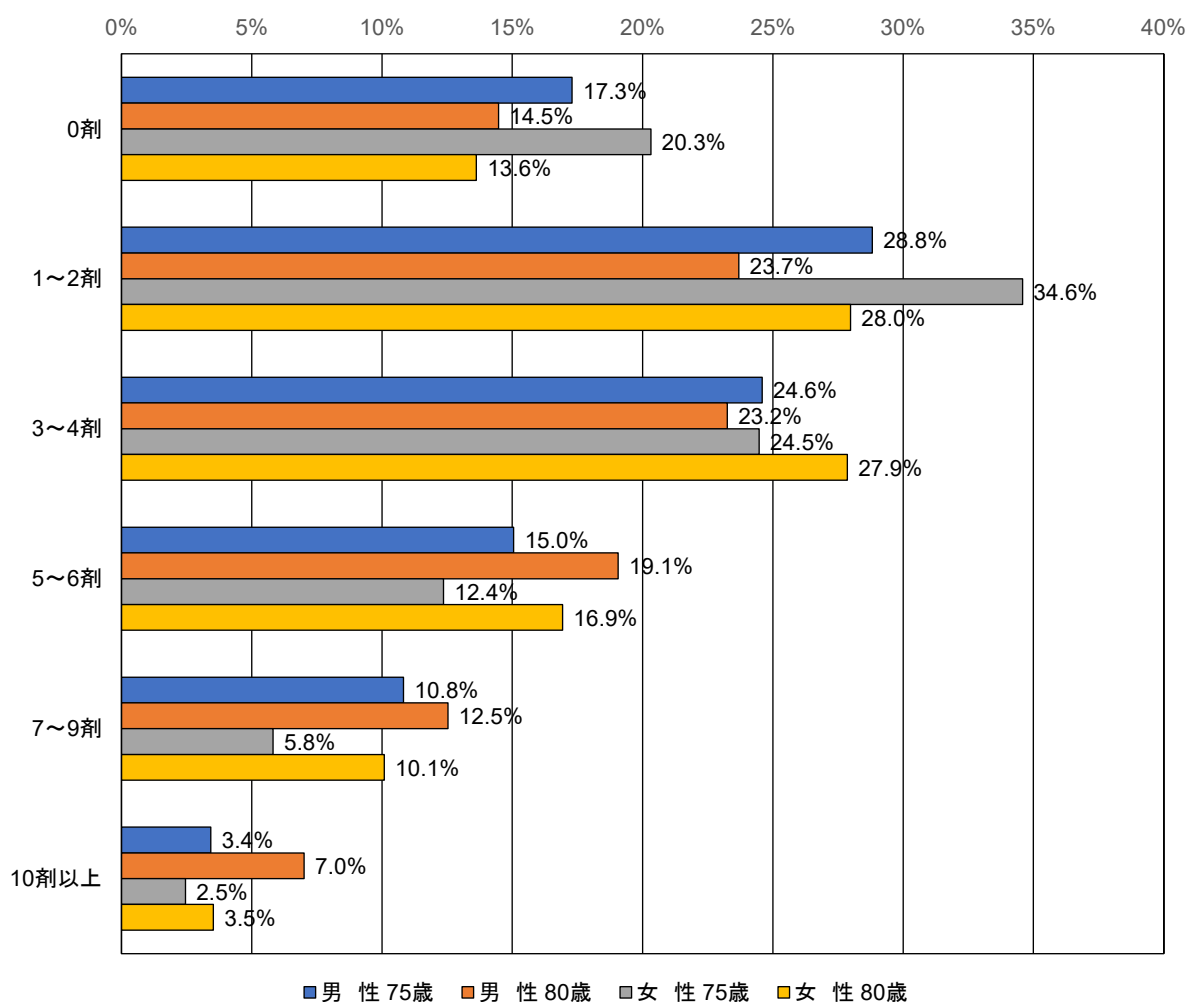
Q7 服薬数

0 剤を除くと 1～2 剤、3～4 剤と増える毎に、年齢、性別に関係なく割合が低下傾向であった。

男女間で比べると、1～4 剤までは一部を除いて、女性の方が男性より服用している割合がやや高かったが、5 剤以上になると逆に男性の方が女性より割合が高かった。

また、5 剤以上では男女とも 80 歳の方が 75 歳より割合が高かった。

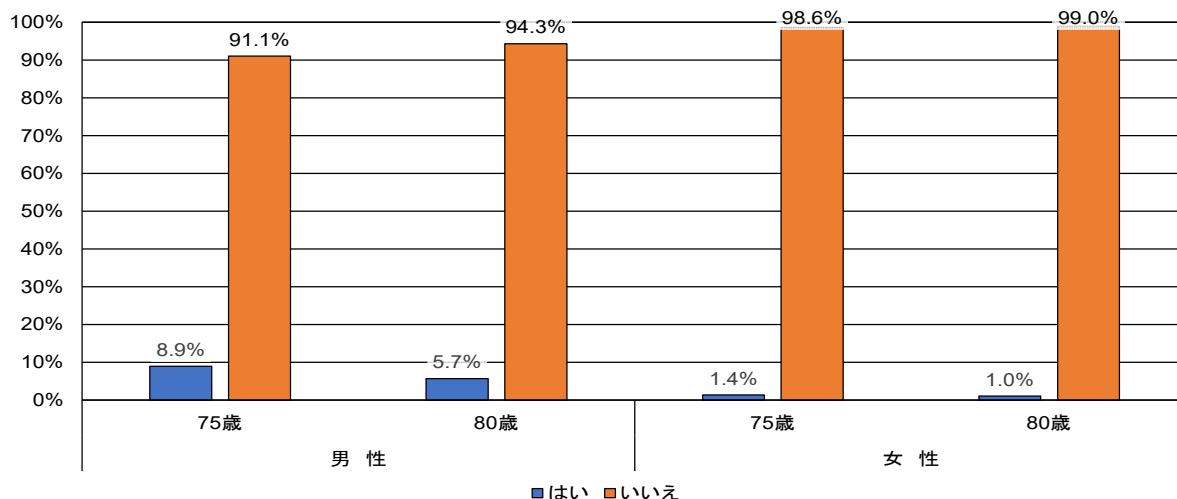
現在、1 日に内服している飲 み薬は何種類ありますか？	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
0剤	524	328	894	440	17.3%	14.5%	20.3%	13.6%
1～2剤	873	537	1,522	904	28.8%	23.7%	34.6%	28.0%
3～4剤	745	527	1,077	900	24.6%	23.2%	24.5%	27.9%
5～6剤	456	432	544	547	15.0%	19.1%	12.4%	16.9%
7～9剤	328	284	256	326	10.8%	12.5%	5.8%	10.1%
10剤以上	104	159	108	114	3.4%	7.0%	2.5%	3.5%



Q8 喫煙の有無

「はい」との回答は、男性 5.7～8.9%、女性 1.0～1.4%と男性の割合が女性に比べて約 6 倍高かった。

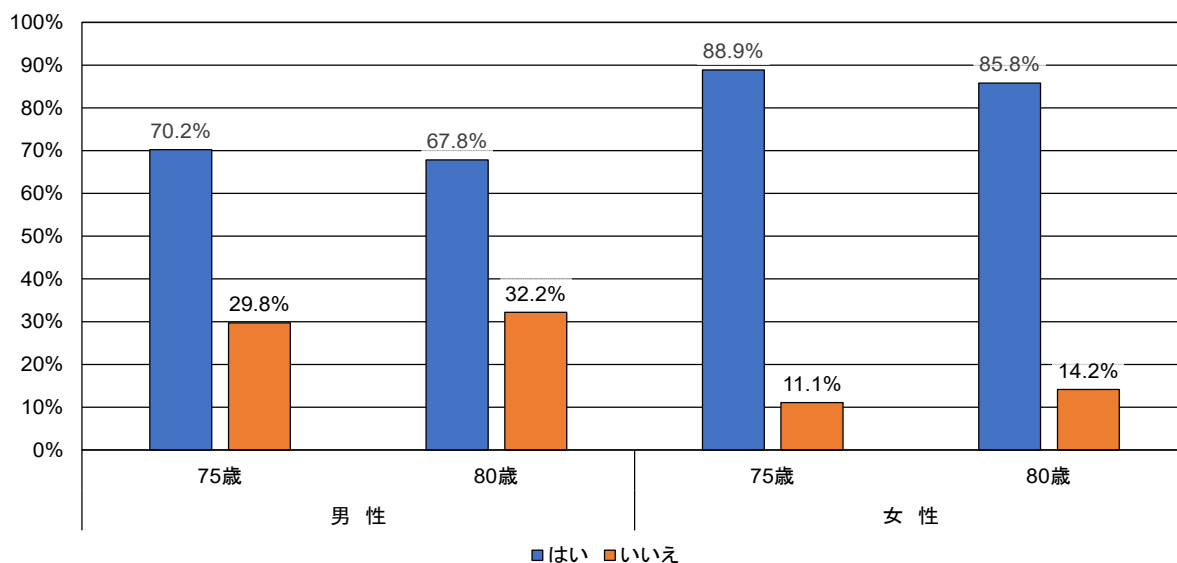
たばこを吸っていますか？	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
はい	301	146	67	38	8.9%	5.7%	1.4%	1.0%
いいえ	3,073	2,420	4,860	3,687	91.1%	94.3%	98.6%	99.0%



Q9 1日2回以上歯磨き

「はい」との回答は、男性 67.8～70.2%、女性 85.8～88.9%と女性の割合が男性に比べて高かった。

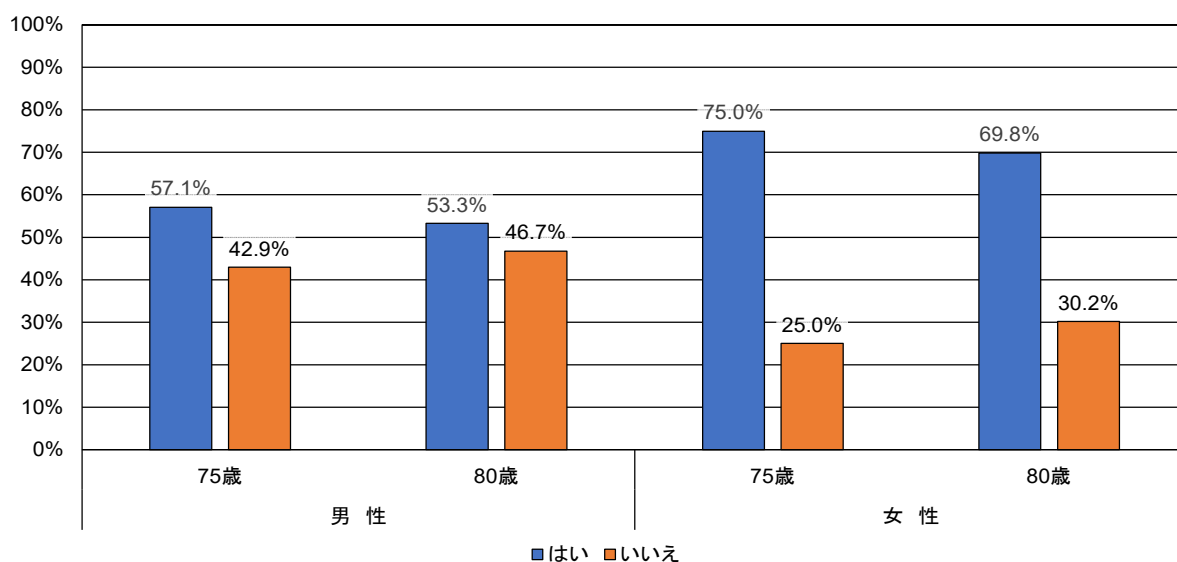
1日2回以上歯をみがいていますか？	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
はい	2,362	1,734	4,359	3,167	70.2%	67.8%	88.9%	85.8%
いいえ	1,001	822	545	523	29.8%	32.2%	11.1%	14.2%



Q10 歯間ブラシ、フロスの使用状況

「はい」との回答は、男性 53.3～57.1%、女性 69.8～75.0%と女性の割合が男性に比べて高かった。

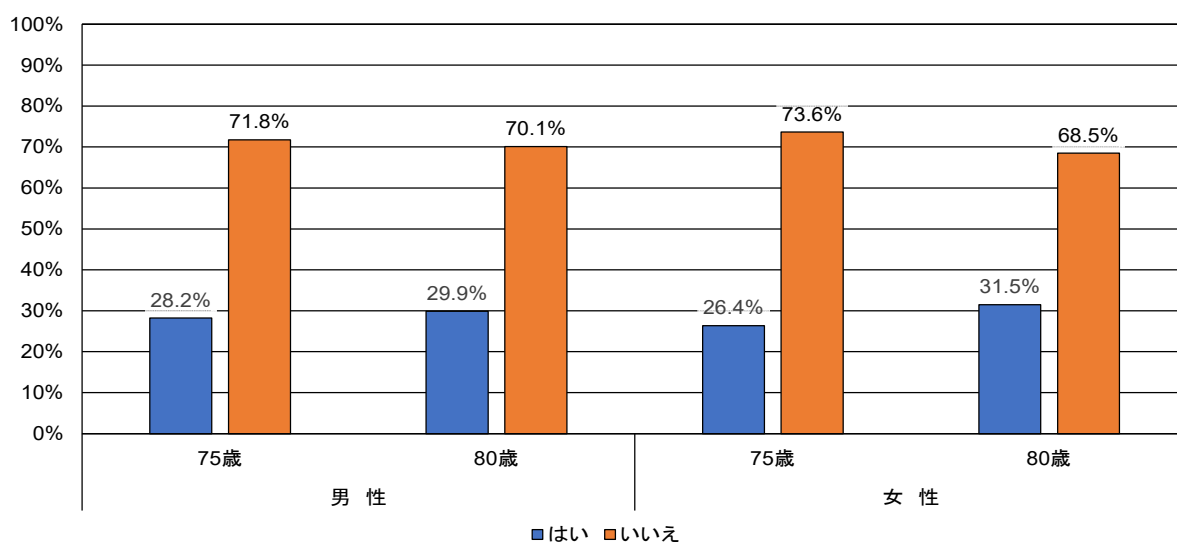
歯間ブラシまたはフロス（糸ようじ）を使っていますか？	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
はい	1,920	1,361	3,685	2,586	57.1%	53.3%	75.0%	69.8%
いいえ	1,445	1,194	1,231	1,118	42.9%	46.7%	25.0%	30.2%



Q11 半年前に比べて固いものがかみにくくなったか

「はい」との回答が、年齢、性別に関係なく 30%前後であった。男女とも 80 歳の割合が 75 歳に比べて高かった。

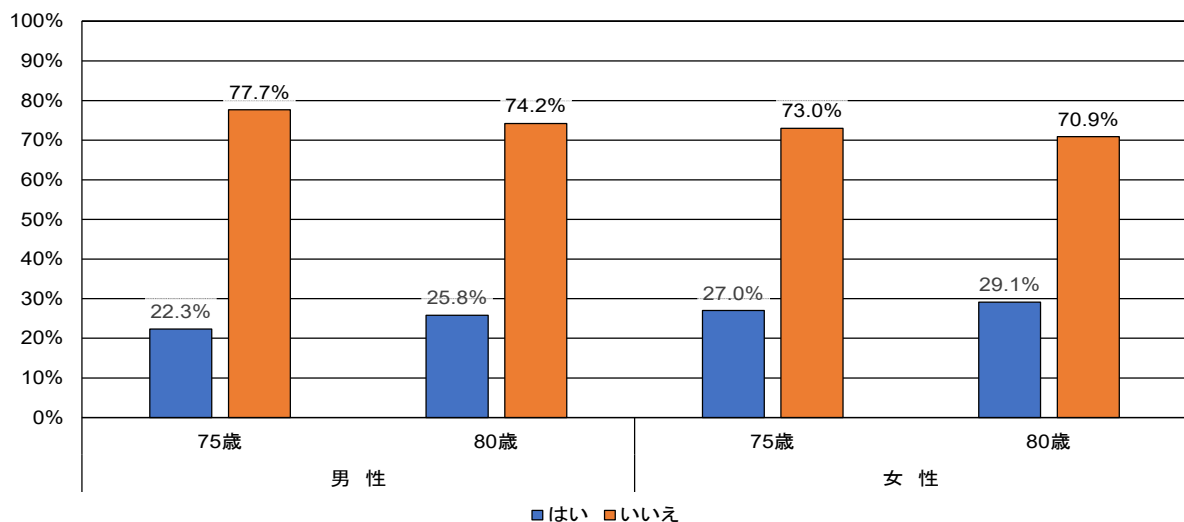
半年前に比べて固いものがかみにくくなりましたか？	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
はい	949	765	1,294	1,167	28.2%	29.9%	26.4%	31.5%
いいえ	2,411	1,796	3,614	2,537	71.8%	70.1%	73.6%	68.5%



Q12 汁物でむせることがあるか

「はい」との回答は、男性 22.3～25.8%、女性 27.0～29.1%と女性の割合が男性に比べて高かった。男女とも 80 歳の割合が 75 歳に比べて高かった。

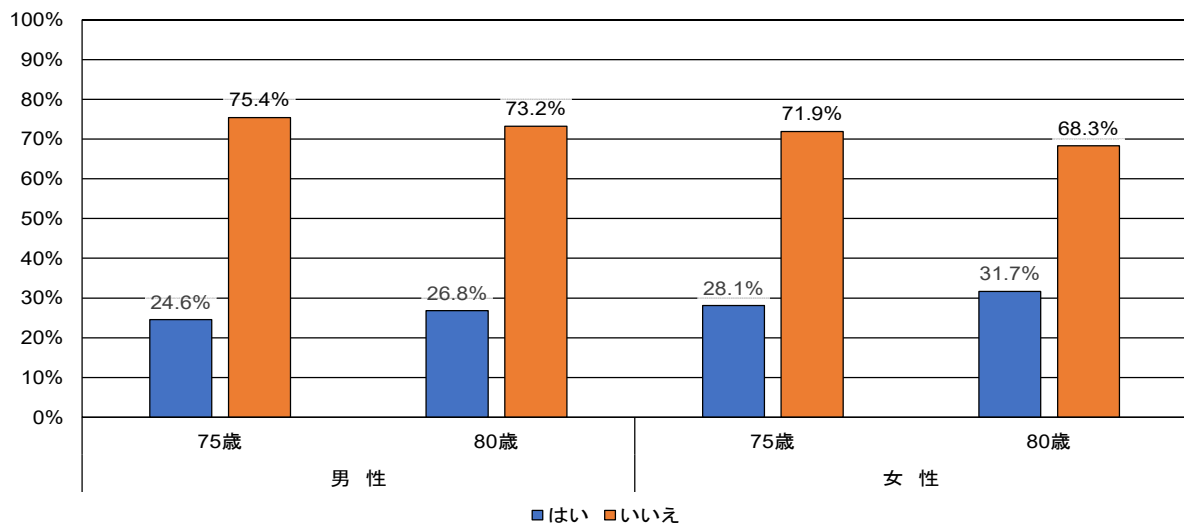
お茶や汁物等でむせることがありますか？	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
はい	751	660	1,328	1,083	22.3%	25.8%	27.0%	29.1%
いいえ	2,617	1,899	3,593	2,636	77.7%	74.2%	73.0%	70.9%



Q13 口の渇きが気になるか

「はい」との回答は、男性 24.6～26.8%、女性 28.1～31.7%と女性の割合が男性に比べて高かった。男女とも 80 歳の割合が 75 歳に比べて高かった。

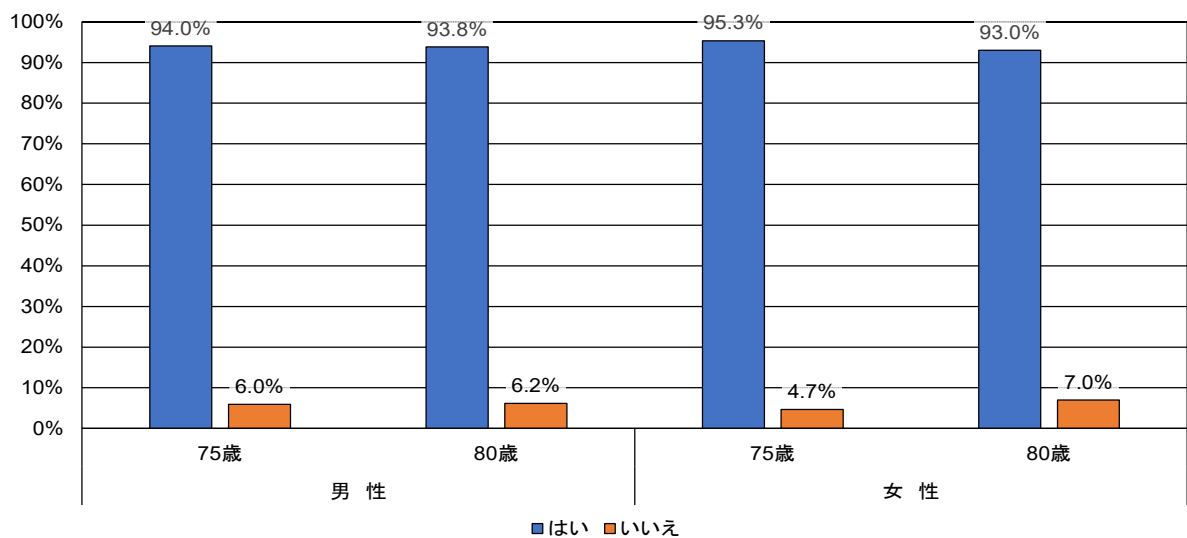
口の渇きが気になりますか？	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
はい	825	684	1,378	1,174	24.6%	26.8%	28.1%	31.7%
いいえ	2,532	1,867	3,525	2,535	75.4%	73.2%	71.9%	68.3%



Q14 週1回外出しているか

「はい」との回答は、年齢、性別に関係なく94%前後であった。

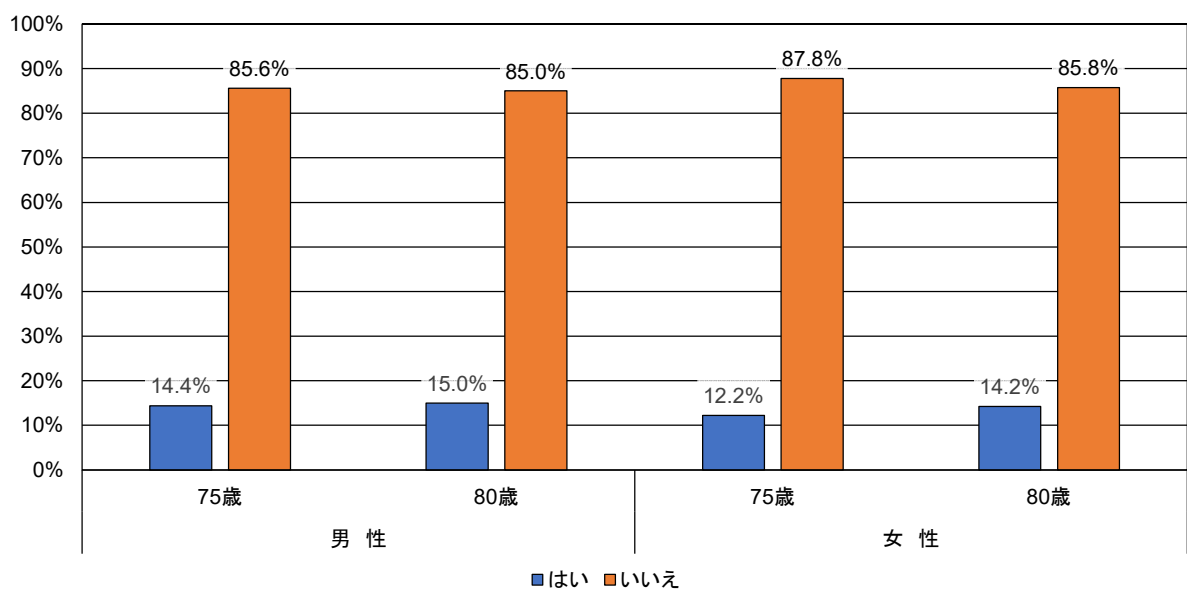
週1回以上は外出していますか？	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
はい	3,174	2,410	4,696	3,467	94.0%	93.8%	95.3%	93.0%
いいえ	201	159	230	260	6.0%	6.2%	4.7%	7.0%



Q15 2～3kg の体重減少

「はい」との回答が、年齢、性別に関係なく14%前後であった。

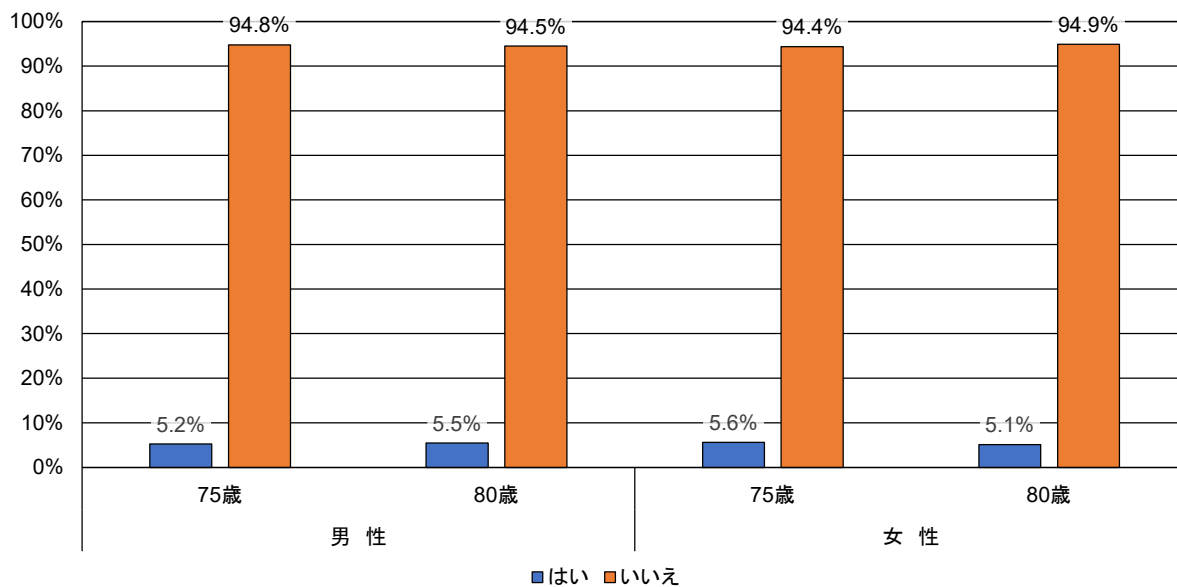
過去半年間で2～3kg以上の体重減少がありましたか？	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
はい	484	384	600	527	14.4%	15.0%	12.2%	14.2%
いいえ	2,882	2,179	4,319	3,176	85.6%	85.0%	87.8%	85.8%



Q16 発熱の有無

「はい」との回答が、年齢、性別に関係なく5%台であった。

過去半年間で発熱（37.8度以上）はありましたか？	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
はい	176	141	277	190	5.2%	5.5%	5.6%	5.1%
いいえ	3,188	2,426	4,638	3,532	94.8%	94.5%	94.4%	94.9%



(3) 後期高齢者歯科健診受診者の口腔状況

・歯の状況（現在歯数分類）

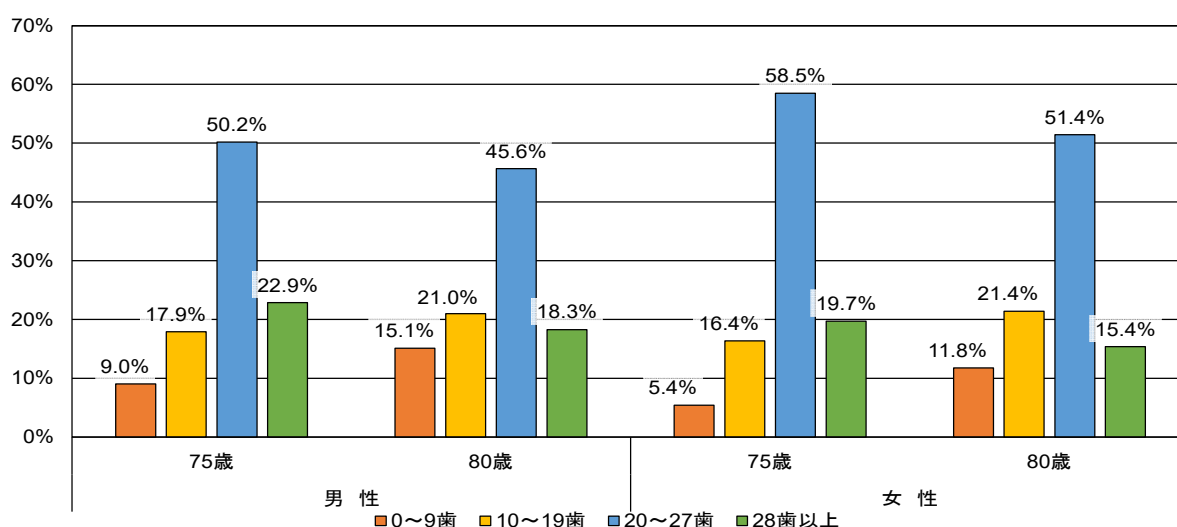
男女とも、「20～27 歯」の者の割合が一番高く、「0～9 歯」の者の割合が一番低かった。

28 本以上現在歯を有する者の割合は、男性 75 歳と 80 歳及び女性 75 歳では 20%前後で、女性 80 歳では約 15%であった。

「8020」の観点からみて、20 本以上現在歯を有する者は、75 歳では男性 73.1%、女性 78.2%であり、ともに 7 割を超えていた。

また、80 歳では男性 63.9%、女性 67.8%であり、ともに 6 割を超えていた。

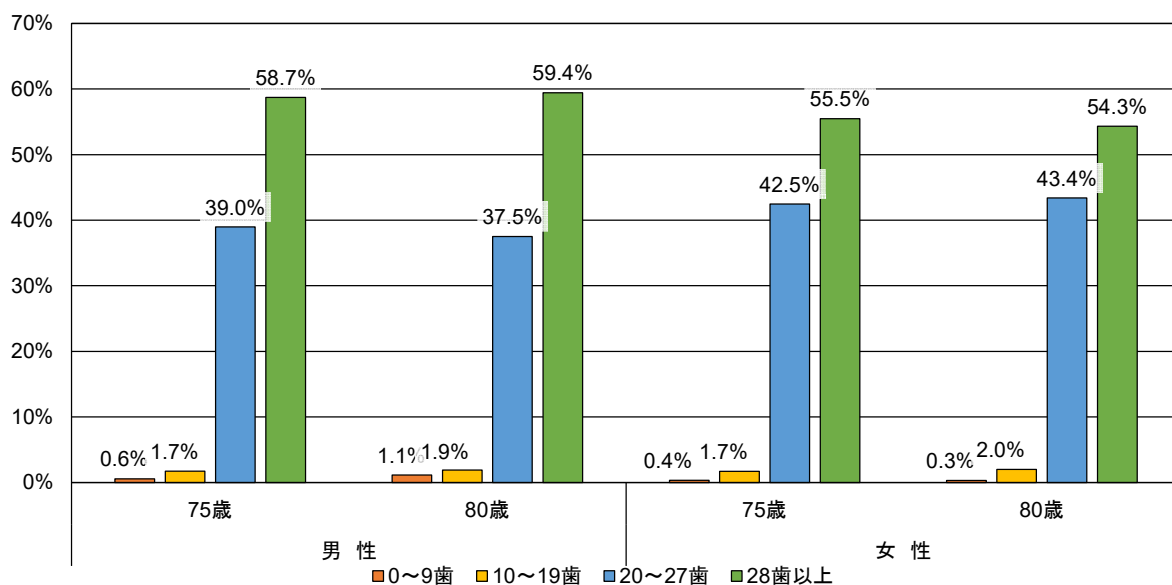
現在歯数分類	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
0～9歯	298	381	259	432	9.0%	15.1%	5.4%	11.8%
10～19歯	591	529	784	784	17.9%	21.0%	16.4%	21.4%
20～27歯	1,655	1,151	2,801	1,886	50.2%	45.6%	58.5%	51.4%
28歯以上	754	461	945	564	22.9%	18.3%	19.7%	15.4%



・歯の状況（機能歯数分類）

男女とも機能歯数が「28 歯以上」の者の割合が一番高く、5 割を超えていた。
機能歯数が「20～27 歯」の者と合わせると、その割合はほぼ 100%であった。

機能歯数分類	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
0～9歯	19	29	17	11	0.6%	1.1%	0.4%	0.3%
10～19歯	57	48	81	73	1.7%	1.9%	1.7%	2.0%
20～27歯	1,285	946	2,034	1,591	39.0%	37.5%	42.5%	43.4%
28歯以上	1,937	1,499	2,657	1,991	58.7%	59.4%	55.5%	54.3%



現在歯数と機能歯数に関する分析においては、現在歯数よりも機能歯数が少ない者を除外して集計した。

・現在歯数と機能歯数の関係(男性 75 歳)

下記のマトリックス集計表は、「現在歯数○歯で機能歯数○歯」の者の人数を表している。例えば、「現在歯数が 0 本で機能歯数が 28 本」の者は、無歯顎で総義歯を装着していると思われる。

尚、マトリックス集計表の縦軸は「現在歯数で、下から上に 0 本～32 本」、横軸は「機能歯数で左から右に 0 本～32 本」となっており、3D グラフはそれに合わせて作成している。その 3D グラフを次ページ上段に示す。

次ページ下段の平面グラフは、「現在歯数○歯」、「機能歯数○歯」の者の其々の人数を表している。

3D グラフでは、現在歯数が 28 本で機能歯数が 28 本の者が 349 人で一番多かった。

また「現在歯数 0 歯で機能歯数 0 歯」の者は 4 人であった。

平面グラフでは、現在歯数、機能歯数ともに 28 本の者が一番多かった。

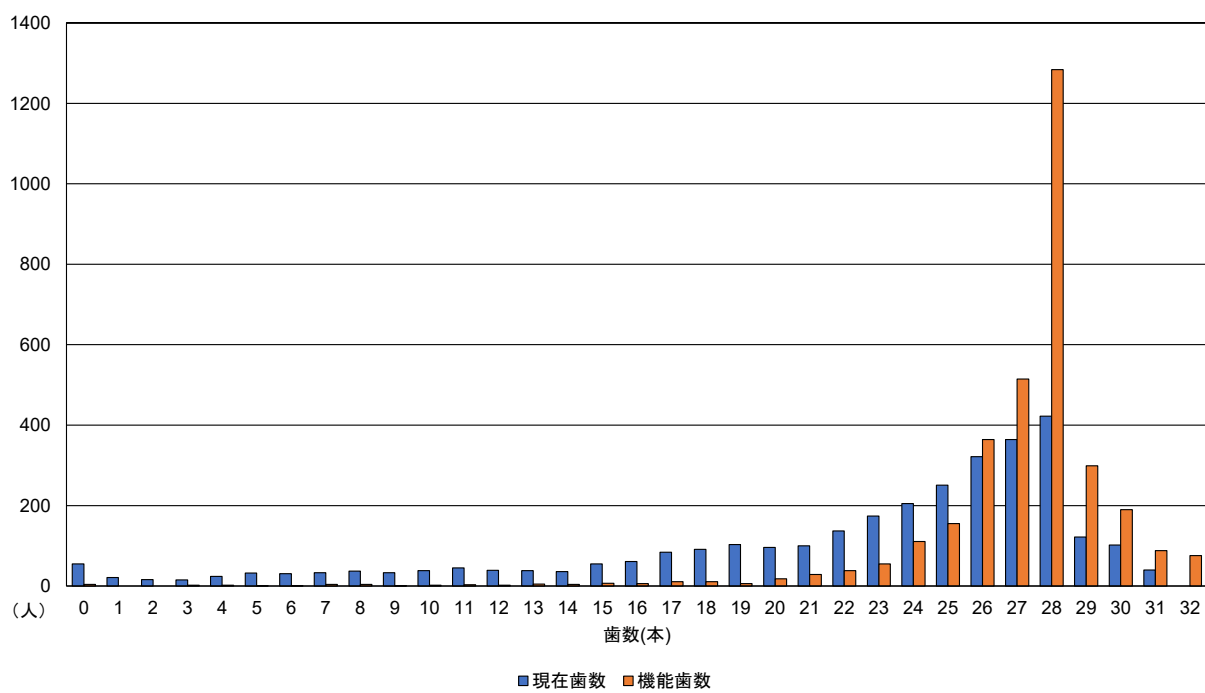
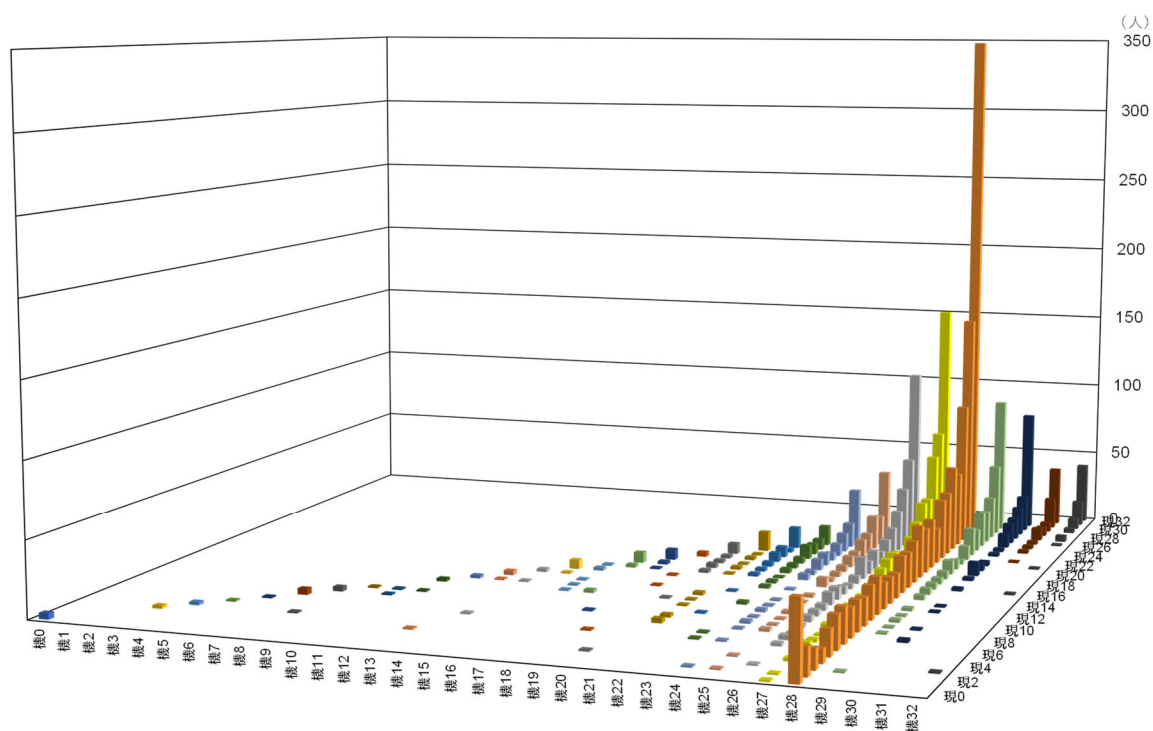
現在歯数が 28 本の者:422 人

機能歯数が 28 本の者:1284 人

尚、現在歯数が 0 本の者は 55 人であった。

	機0	機1	機2	機3	機4	機5	機6	機7	機8	機9	機10	機11	機12	機13	機14	機15	機16	機17	機18	機19	機20	機21	機22	機23	機24	機25	機26	機27	機28	機29	機30	機31	機32	計	
現32																																	41	41	
現31																																40	17	57	
現30																															81	21	7	109	
現29																														92	24	6	3	125	
現28																													349	48	19	6	0	422	
現27																												160	154	28	14	8	4	368	
現26																											116	75	95	21	13	2	1	323	
現25																										48	58	61	50	23	9	2	0	251	
現24																									37	19	40	34	57	14	2	2	0	205	
現23																								13	16	22	27	34	42	18	2	0	0	174	
現22																							14	7	12	13	18	23	40	9	0	1	0	137	
現21																						13	2	7	8	12	13	16	23	3	3	0	1	101	
現20																					7	1	7	9	5	7	8	9	32	6	5	0	0	96	
現19																				3	2	2	6	4	8	7	12	12	29	9	9	0	0	103	
現18																			7	0	2	1	3	3	7	4	8	15	34	5	2	0	0	91	
現17																		7	2	0	3	2	2	3	3	3	14	14	27	4	0	0	0	84	
現16																	1	2	1	0	2	1	2	1	4	2	5	11	23	4	2	0	1	62	
現15																6	2	0	0	1	0	0	0	2	0	6	3	7	24	4	0	0	0	55	
現14															2	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	5	6	16	3	0	0	0	36	
現13														3	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	2	8	4	17	0	1	0	0	38	
現12													2	1	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	1	8	2	17	2	1	0	0	39	
現11												2	0	0	0	0	1	2	0	0	1	1	0	2	1	1	4	5	24	1	0	0	0	45	
現10											0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	2	4	5	22	2	0	0	0	38	
現9									1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	4	3	18	1	1	0	0	33	
現8								3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	2	1	2	4	20	1	0	0	0	37	
現7							4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	2	1	1	19	0	2	0	0	33	
現6						1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	2	23	0	0	0	0	31	
現5						1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	2	4	22	0	0	0	0	32	
現4					2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	17	0	0	0	0	24	
現3				2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	9	0	0	0	1	16
現2			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	13	1	0	0	0	16	
現1		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	18	0	0	0	0	21	
現0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	50	0	0	0	0	55	
計	4	0	0	2	2	1	1	4	4	1	2	3	2	5	4	7	6	11	11	6	18	29	38	55	111	155	364	515	1,284	299	190	88	76		

現 xx:現在歯数 機 xx:機能歯数



・現在歯数と機能歯数の関係(男性 80 歳)

3D グラフでは、現在歯数が 28 本で機能歯数が 28 本の者が 198 人で一番多かった。
また「現在歯数 0 歯で機能歯数 0 歯」の者は 9 人であった。

平面グラフでは、現在歯数、機能歯数ともに 28 本の者が一番多かった。

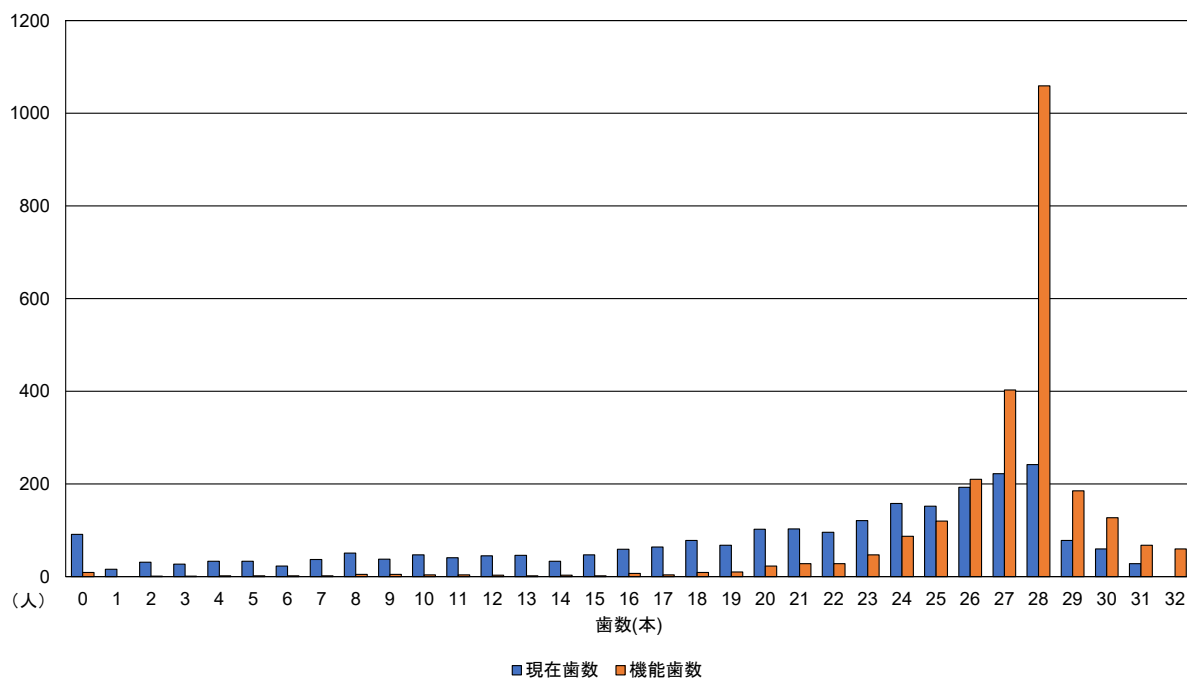
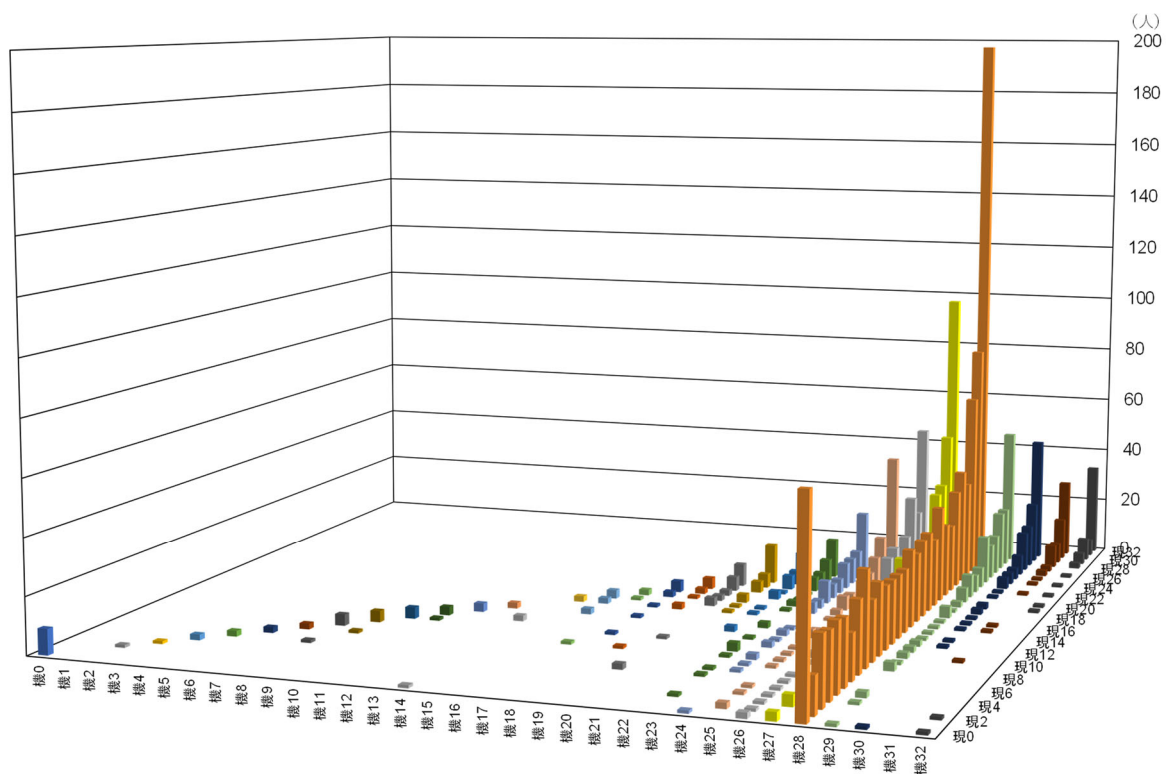
現在歯数が 28 本の者:244 人

機能歯数が 28 本の者:1059 人

尚、現在歯数が 0 本の者は 91 人であった。

	機0	機1	機2	機3	機4	機5	機6	機7	機8	機9	機10	機11	機12	機13	機14	機15	機16	機17	機18	機19	機20	機21	機22	機23	機24	機25	機26	機27	機28	機29	機30	機31	機32	計
現32																																	33	33
現31																																28	6	34
現30																															45	15	8	68
現29																														49	22	7	4	82
現28																													198	21	15	8	2	244
現27																												102	83	21	14	2	0	222
現26																											53	51	66	14	7	2	1	194
現25																										43	23	34	35	12	4	1	0	152
現24																									23	10	30	32	41	17	4	1	1	159
現23																								14	10	16	17	18	35	7	4	0	0	121
現22																							10	8	9	10	11	16	24	6	1	1	1	97
現21																						14	5	5	9	6	16	13	26	8	1	0	0	103
現20																					8	5	5	5	5	5	14	16	34	5	0	0	1	103
現19																				4	5	4	1	1	5	2	5	13	24	2	2	0	1	69
現18																			4	2	2	0	3	1	8	4	5	18	28	1	2	0	0	78
現17																		2	2	1	2	3	0	2	3	5	4	8	27	4	1	0	0	64
現16																	3	1	0	0	3	1	1	1	4	2	3	13	24	1	1	1	0	59
現15																2	2	0	1	2	0	1	1	0	0	1	3	4	27	1	1	1	0	47
現14															0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	7	22	1	0	0	0	33
現13														2	0	0	2	0	1	0	0	0	0	2	1	1	6	7	22	1	1	0	0	46
現12													3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	3	3	7	22	2	1	0	0	45
現11												3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	2	4	22	2	0	0	0	41
現10											4	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	1	1	8	25	2	0	1	0	47
現9										4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	2	6	21	1	0	0	0	0	38
現8									4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	2	1	1	4	33	3	0	0	0	51
現7								2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	7	25	0	0	0	0	37
現6							2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	16	0	0	0	0	23
現5						2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	1	3	23	0	0	0	0	33
現4					2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	24	2	0	0	0	33
現3				1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	23	1	0	0	0	27
現2			1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4	24	0	0	0	1	32
現1		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	13	0	0	0	0	16
現0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3	72	1	1	0	1	91
計	9	0	1	1	2	2	2	2	5	5	4	4	3	2	3	2	7	4	9	10	23	28	28	47	87	120	210	403	1,059	185	127	68	60	

現 xx:現在歯数 機 xx:機能歯数



・現在菌数と機能菌数の関係(女性 75 歳)

3D グラフでは、現在歯数が 28 本で機能歯数が 28 本の者が 592 人で一番多かった。また「現在歯数 0 歯で機能歯数 0 歯」の者は 5 人であった。

平面グラフでは、現在歯数、機能歯数ともに 28 本の者が一番多かった。

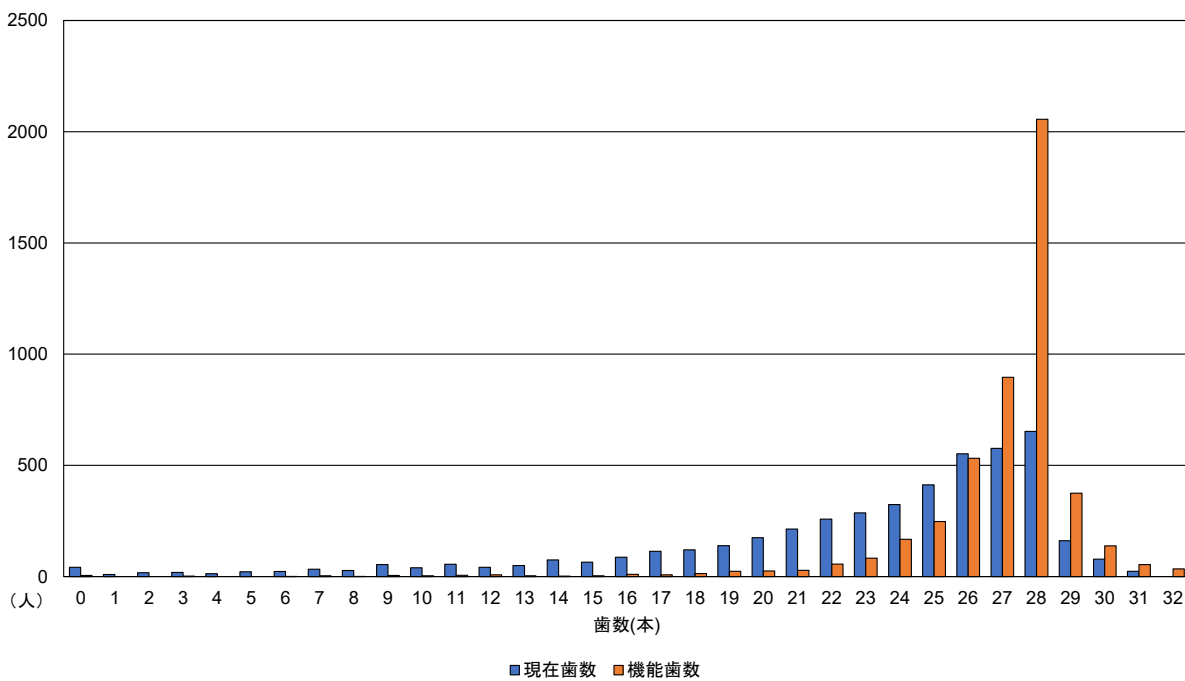
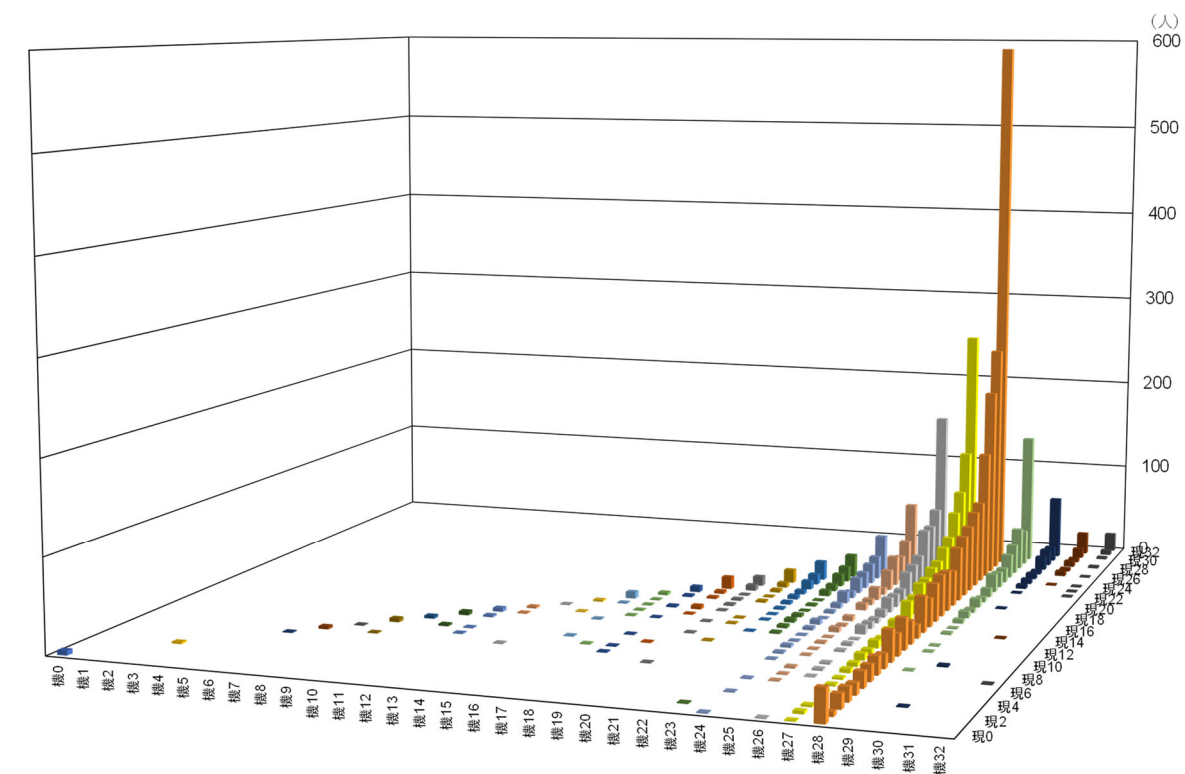
現在歯数が 28 本の者;655 人

機能歯数が 28 本の者;2056 人

尚、現在歯数が 0 本の者は 42 人であった。

[illegible]

現 xx:現在齒數 機 xx:機能齒數



・現在歯数と機能歯数の関係(女性 80 歳)

3D グラフでは、現在歯数が 28 本で機能歯数が 28 本の者が 347 人で一番多かった。
また「現在歯数 0 歯で機能歯数 0 歯」の者は 4 人であった。

平面グラフでは、現在歯数、機能歯数ともに 28 本の者が一番多かった。

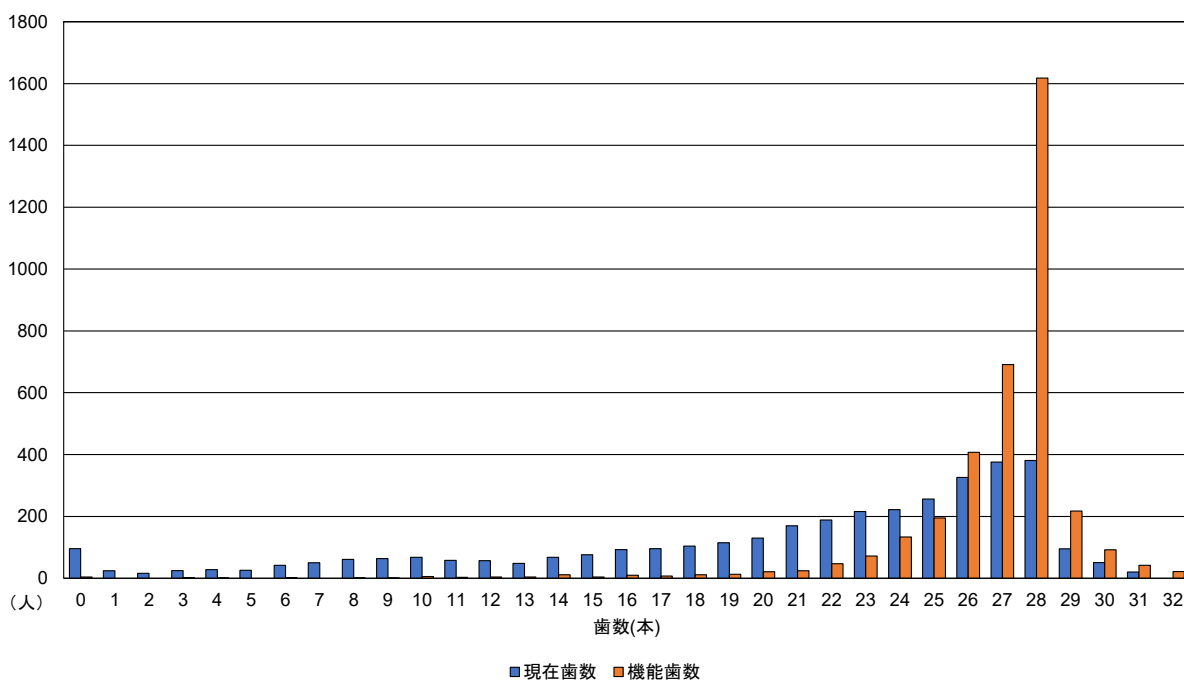
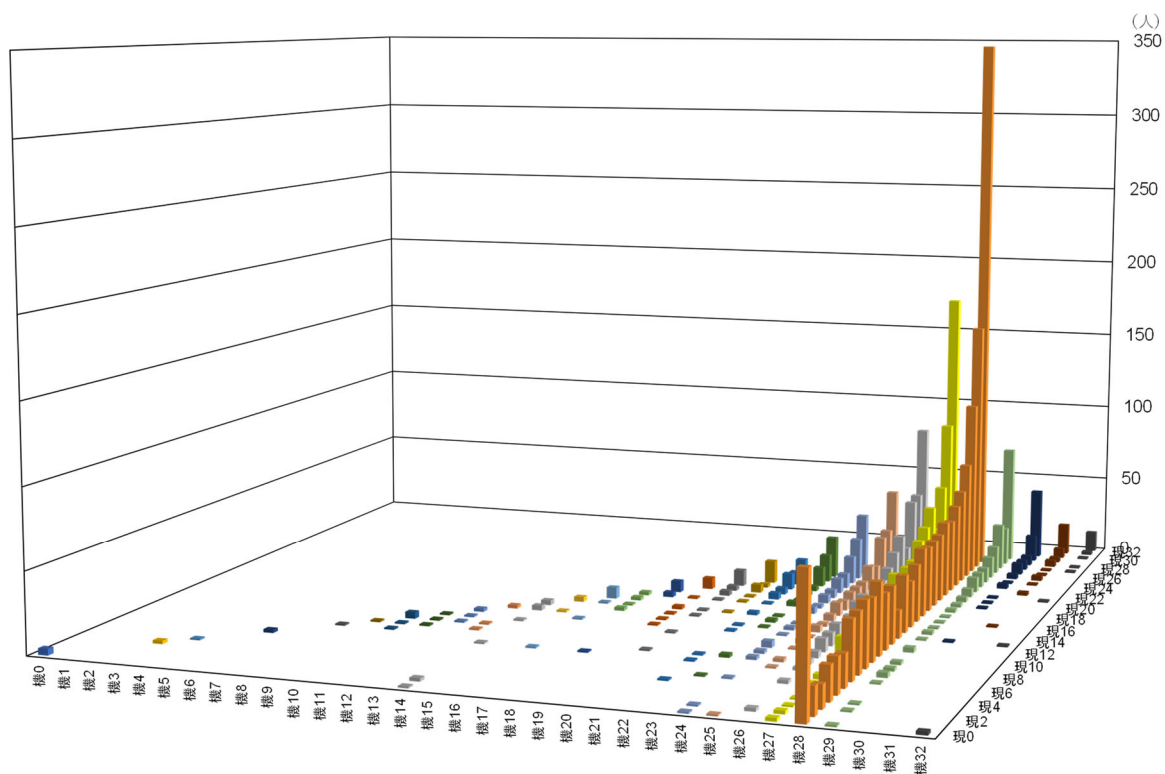
現在歯数が 28 本の者:382 人

機能歯数が 28 本の者:1618 人

尚、現在歯数が 0 本の者は 96 人であった。

	機0	機1	機2	機3	機4	機5	機6	機7	機8	機9	機10	機11	機12	機13	機14	機15	機16	機17	機18	機19	機20	機21	機22	機23	機24	機25	機26	機27	機28	機29	機30	機31	機32	計			
現32																																		13	13		
現31																																	20	2	22		
現30																																45	6	1	52		
現29																														75	17	3	0	95			
現28																													347	24	6	4	1	382			
現27																												179	161	29	6	1	1	377			
現26																											93	97	111	17	7	1	0	326			
現25																										53	52	58	74	13	3	3	0	256			
現24																									39	30	50	33	59	9	1	1	0	222			
現23																								26	26	28	22	50	52	9	3	0	0	216			
現22																								13	17	17	12	33	40	45	9	0	2	0	188		
現21																							14	8	12	9	15	25	34	47	5	1	0	1	171		
現20																						10	2	10	3	9	8	18	24	42	3	1	0	0	130		
現19																						7	3	5	4	3	5	8	13	23	41	2	1	0	0	115	
現18																						7	0	3	1	4	1	5	8	14	19	40	2	0	0	104	
現17																						2	3	1	1	1	1	3	2	6	8	25	42	1	0	0	96
現16																						7	2	0	0	0	0	0	4	8	14	21	35	1	0	1	93
現15																																			0	76	
現14																																				68	
現13																																				49	
現12																																				57	
現11																																				58	
現10																																				68	
現9																																				64	
現8																																				61	
現7																																				50	
現6																																				42	
現5																																				26	
現4																																				28	
現3																																				15	
現2																																				25	
現1																																				24	
現0																																				96	
計	4	0	0	2	1	0	2	0	1	1	6	3	4	4	11	4	10	7	11	13	21	24	47	72	134	195	407	691	1,618	217	92	42	22				

現 xx:現在歯数 機 xx:機能歯数



・現在歯数別機能歯数 28 歯以上の割合(男性)

この項目(現在歯数別機能歯数 28 歯以上の割合)では、現在歯数が 27 歯以下で機能歯数が 28 歯以上の者を現在歯数別にその割合を調べている。つまり、何らかの補綴物を装着している者の割合を表している。

尚、現在歯数が 28 歯以上の者については、その割合が 100%となるため、現在歯数 27 歯以下の者について分析を行う。

75 歳の場合、現在歯数 0 歯で機能歯数 28 歯以上の者の割合は約 90%であった。そこから現在歯数が増えるにつれて、機能歯数 28 歯以上の者の割合は減少し、現在歯数 21 歯ではその割合は 30%を切っていた。

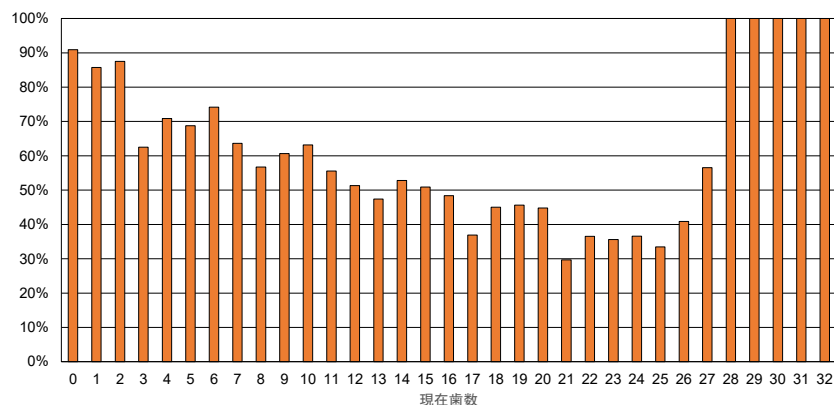
その後、現在歯数が増えるにつれて、機能歯数 28 歯以上の者の割合は増加し、現在歯数 27 歯ではその割合は約 57%であった。

80 歳の場合も、多少割合の値は異なるものの、75 歳と同じような傾向にあった。

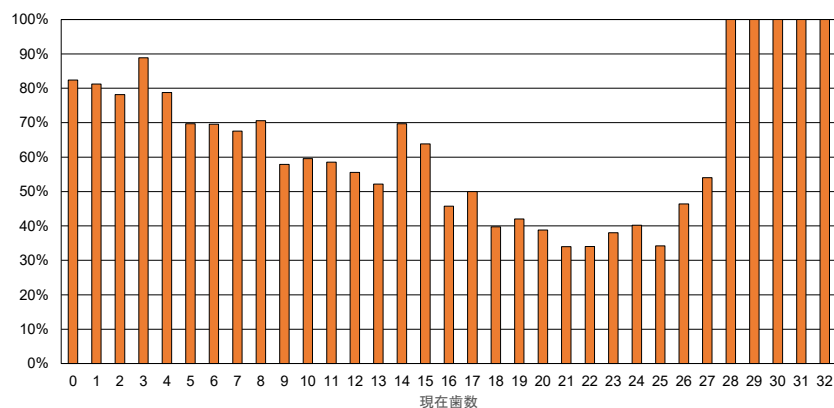
現在歯数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
男性75歳	90.9%	85.7%	87.5%	62.5%	70.8%	68.8%	74.2%	63.6%	56.8%	60.6%	63.2%	55.6%	51.3%	47.4%	52.8%	50.9%	48.4%
男性80歳	82.4%	81.3%	78.1%	88.9%	78.8%	69.7%	69.6%	67.6%	70.6%	57.9%	59.6%	58.5%	55.6%	52.2%	69.7%	63.8%	45.8%

現在歯数	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
男性75歳	36.9%	45.1%	45.6%	44.8%	29.7%	36.5%	35.6%	36.6%	33.5%	40.9%	56.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男性80歳	50.0%	39.7%	42.0%	38.8%	34.0%	34.0%	38.0%	40.3%	34.2%	46.4%	54.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・男性 75 歳



・男性 80 歳



・現在歯数別機能歯数 28 歯以上の割合(女性)

80 歳の場合、現在歯数 0 歯で機能歯数 28 歯以上の者の割合は約 90%であった。

そこから、現在歯数が増えるにつれて、機能歯数 28 歯以上の者の割合は減少し、現在歯数 22 歯と 23 歯ではその割合は 30%を切っていた。

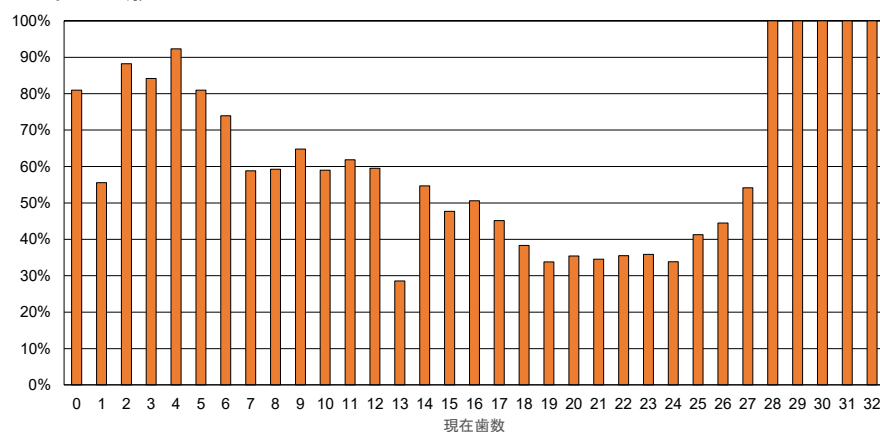
その後、現在歯数が増えるにつれて、機能歯数 28 歯以上の者の割合は増加し、現在歯数 27 歯ではその割合は約 53%であり、男性と傾向が似ていた。

75 歳の場合は、その割合が最も低い者は現在歯数 13 歯(約 29%)であったが、基本的には傾向は似ていた。

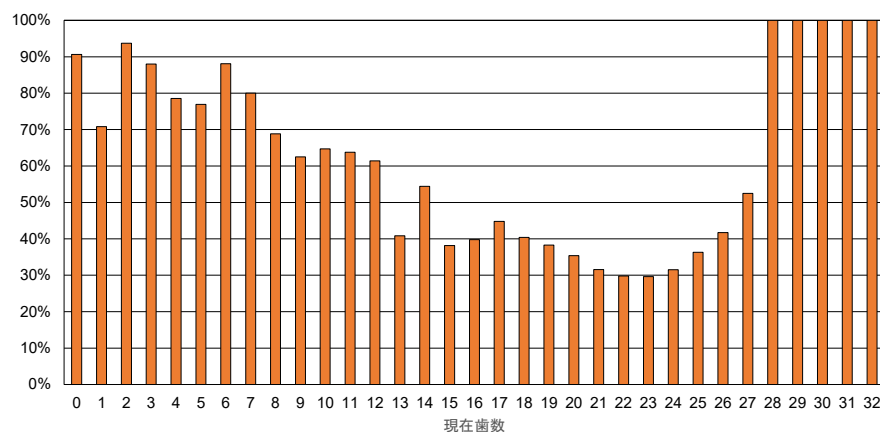
現在歯数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
女性75歳	81.0%	55.6%	88.2%	84.2%	92.3%	81.0%	73.9%	58.8%	59.3%	64.8%	59.0%	61.8%	59.5%	28.6%	54.7%	47.7%	50.6%
女性80歳	90.6%	70.8%	93.8%	88.0%	78.6%	76.9%	88.1%	80.0%	68.9%	62.5%	64.7%	63.8%	61.4%	40.8%	54.4%	38.2%	39.8%

現在歯数	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
女性75歳	45.1%	38.3%	33.8%	35.4%	34.6%	35.5%	35.9%	33.8%	41.3%	44.5%	54.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
女性80歳	44.8%	40.4%	38.3%	35.4%	31.6%	29.8%	29.6%	31.5%	36.3%	41.7%	52.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

・女性 75 歳



・女性 80 歳



・現在歯数と機能歯数が同じ者の割合(男性)

この項目(現在歯数と機能歯数が同じ者の割合)では、現在歯数と機能歯数が同じなので、欠損部に補綴物を装着していない(あるいは放置している)者の割合を表している。

尚、現在歯数 32 歯の者は、その割合は 100%になる。

この項目も現在歯数 27 歯以下の者について分析を行う。

80 歳では現在歯数 9 歯を除き、現在歯数 0～20 歯までは、現在歯数と機能歯数が同じ者の割合は 10%を切っていた。

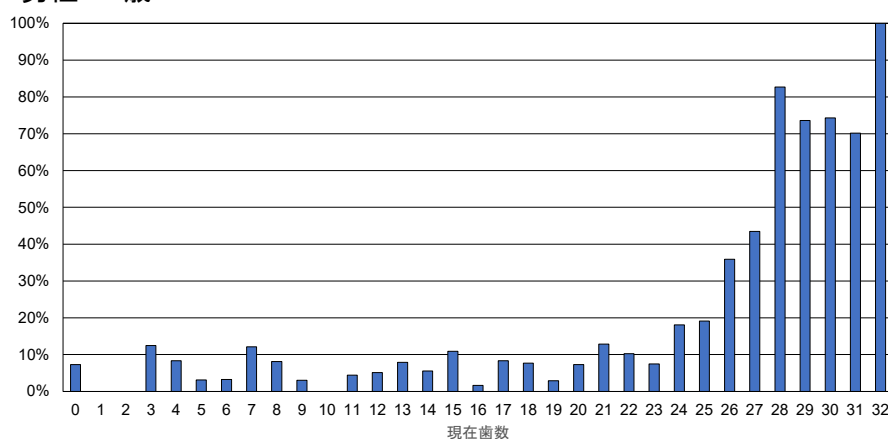
その割合は現在歯数 21 歯から徐々に増え、現在歯数 27 歯では約 46%であった。

75 歳の場合も、同じような傾向にあった。

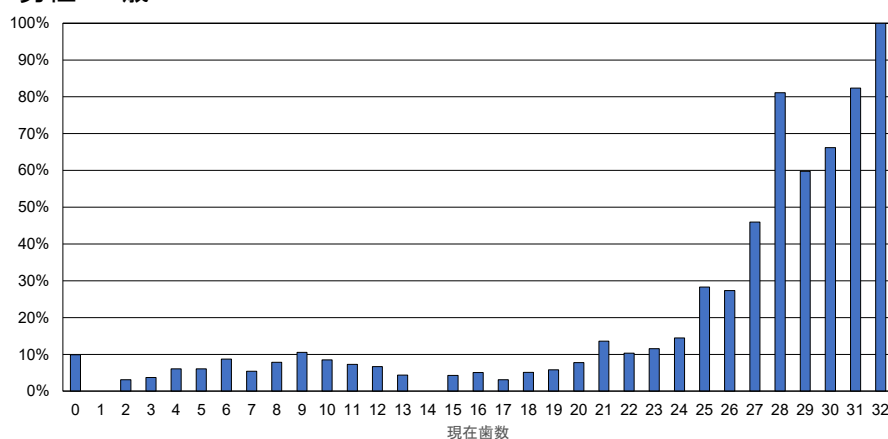
現在歯数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
男性75歳	7.3%	0.0%	0.0%	12.5%	8.3%	3.1%	3.2%	12.1%	8.1%	3.0%	0.0%	4.4%	5.1%	7.9%	5.6%	10.9%	1.6%
男性80歳	9.9%	0.0%	3.1%	3.7%	6.1%	6.1%	8.7%	5.4%	7.8%	10.5%	8.5%	7.3%	6.7%	4.3%	0.0%	4.3%	5.1%

現在歯数	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
男性75歳	8.3%	7.7%	2.9%	7.3%	12.9%	10.2%	7.5%	18.0%	19.1%	35.9%	43.5%	82.7%	73.6%	74.3%	70.2%	100.0%
男性80歳	3.1%	5.1%	5.8%	7.8%	13.6%	10.3%	11.6%	14.5%	28.3%	27.3%	45.9%	81.1%	59.8%	66.2%	82.4%	100.0%

・男性 75 歳



・男性 80 歳



・現在歯数と機能歯数が同じ者の割合(女性)

80歳では現在歯数0～21歯までは、現在歯数と機能歯数が同じ者の割合は10%を切っていた。その割合は現在歯数22歯から徐々に増え、現在歯数27歯では約48%であった。

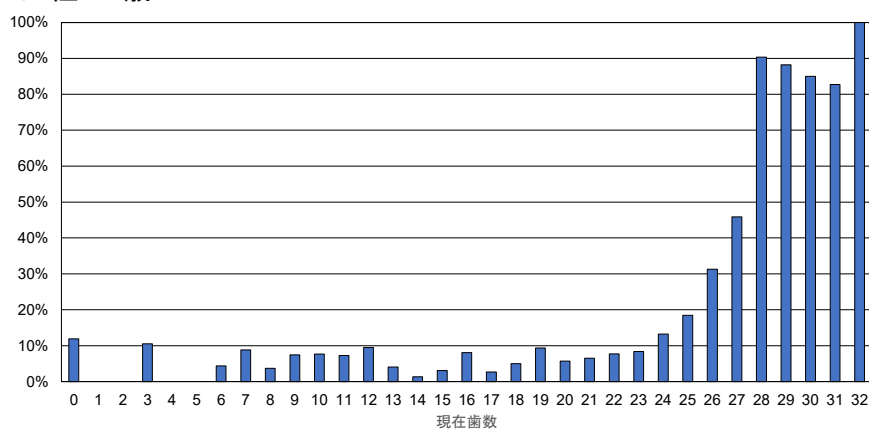
75歳の場合も、同じような傾向にあった。

男女とも性別に関係なく、その割合は同じような傾向であった。

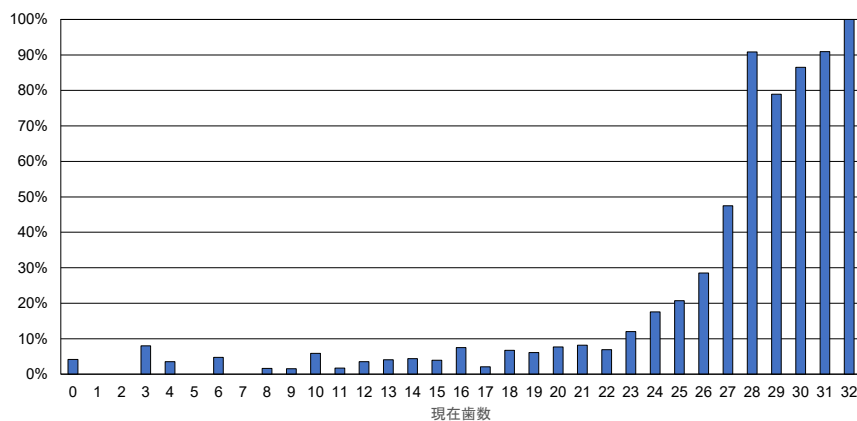
現在歯数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
女性75歳	11.9%	0.0%	0.0%	10.5%	0.0%	0.0%	4.3%	8.8%	3.7%	7.4%	7.7%	7.3%	9.5%	4.1%	1.3%	3.1%	8.0%
女性80歳	4.2%	0.0%	0.0%	8.0%	3.6%	0.0%	4.8%	0.0%	1.6%	1.6%	5.9%	1.7%	3.5%	4.1%	4.4%	3.9%	7.5%

現在歯数	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
女性75歳	2.7%	5.0%	9.4%	5.7%	6.5%	7.7%	8.4%	13.2%	18.4%	31.3%	45.8%	90.4%	88.2%	85.0%	82.8%	100.0%
女性80歳	2.1%	6.7%	6.1%	7.7%	8.2%	6.9%	12.0%	17.6%	20.7%	28.5%	47.5%	90.8%	78.9%	86.5%	90.9%	100.0%

・女性 75 歳



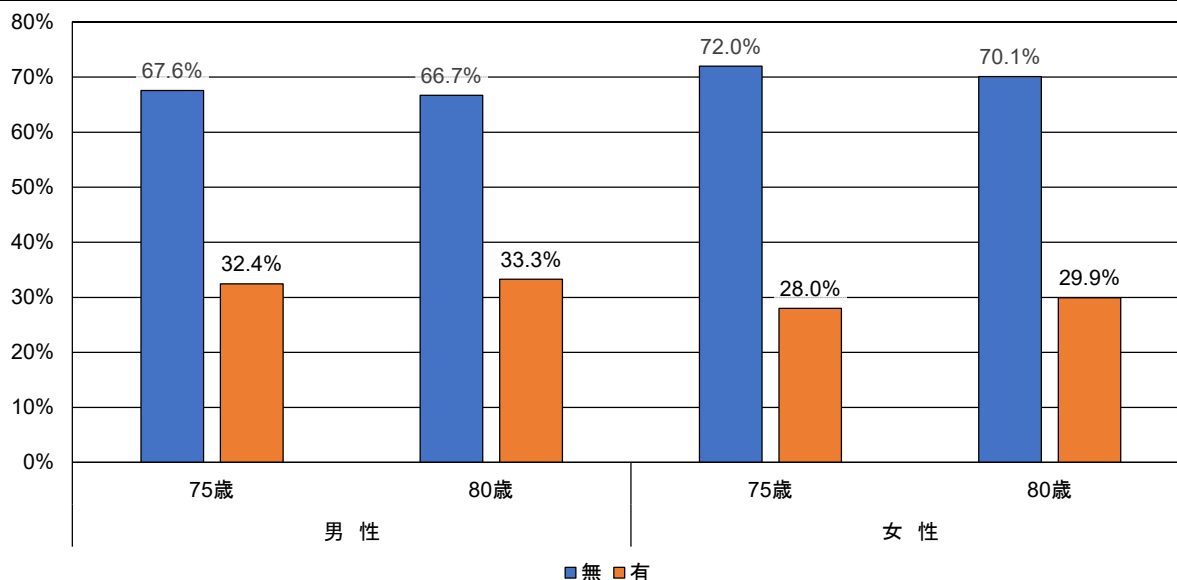
・女性 80 歳



・歯の状況（未処置歯の有無）

未処置の歯を有する者の割合は、年齢に関係なく、男性が 30%以上、女性は 30%未満と、男性の方がやや高かった。

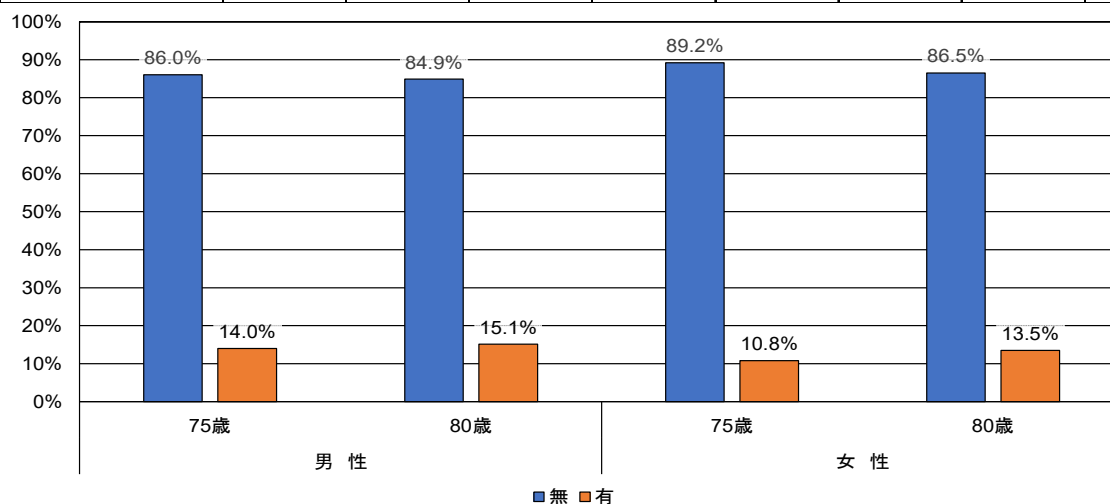
未処置歯の有無	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
無	2,267	1,706	3,518	2,601	67.6%	66.7%	72.0%	70.1%
有	1,088	851	1,368	1,109	32.4%	33.3%	28.0%	29.9%



・歯の状況（根面う蝕の有無）

根面う蝕を有する者の割合も、年齢に関係なく、男性が 14%と 15.1%、女性が 10.3%と 13.5%と、男性の方が女性よりやや高かった。

根面う蝕の有無	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
無	2,776	2,100	4,193	3,069	86.0%	84.9%	89.2%	86.5%
有	451	374	507	480	14.0%	15.1%	10.8%	13.5%

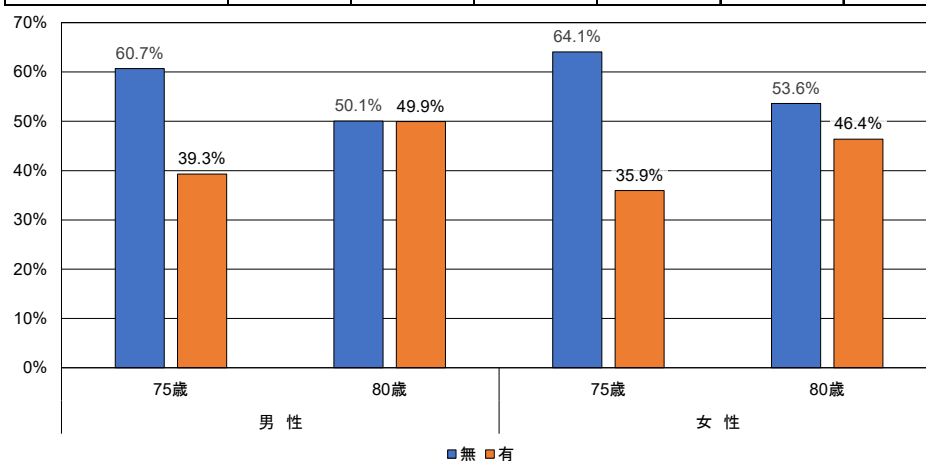


・義歯使用の有無

義歯を使用している者の割合は、75 歳は男女とも 30%台後半、80 歳は 40%台後半であり、年齢に関係なく男性の方が女性よりやや高かった。

男性 80 歳では、ほぼ半数の者が義歯を使用していた。

義歯使用の有無	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
無	2,048	1,289	3,159	2,006	60.7%	50.1%	64.1%	53.6%
有	1,326	1,286	1,773	1,736	39.3%	49.9%	35.9%	46.4%



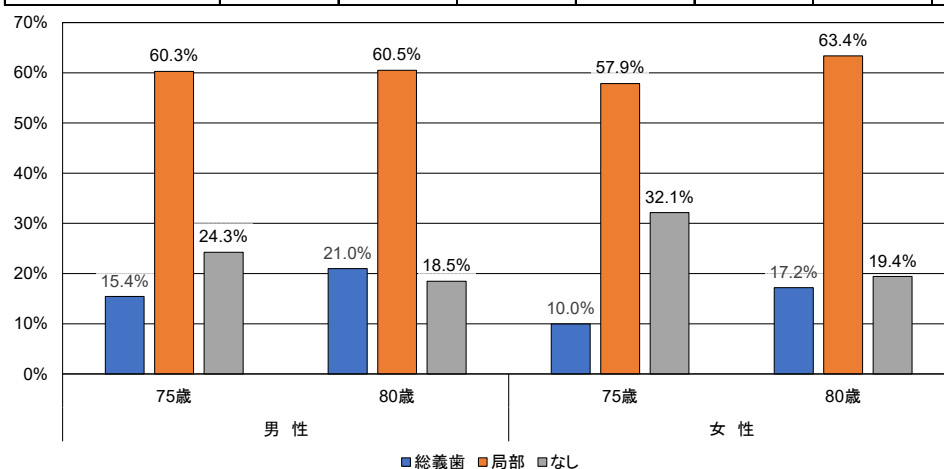
・義歯の部位(上顎)

年齢、性別に関係なく、局部床義歯の割合は 6 割前後であった。

総義歯の割合は、男性 80 歳が一番高かった。

義歯未使用の割合は、80 歳は男女とも 20%未満だが、75 歳では男性が約 25%、女性は 30%を超えていた。

義歯の部位 (上顎)	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
総義歯	203	268	175	296	15.4%	21.0%	10.0%	17.2%
局部	792	772	1,014	1,090	60.3%	60.5%	57.9%	63.4%
なし	319	236	563	334	24.3%	18.5%	32.1%	19.4%



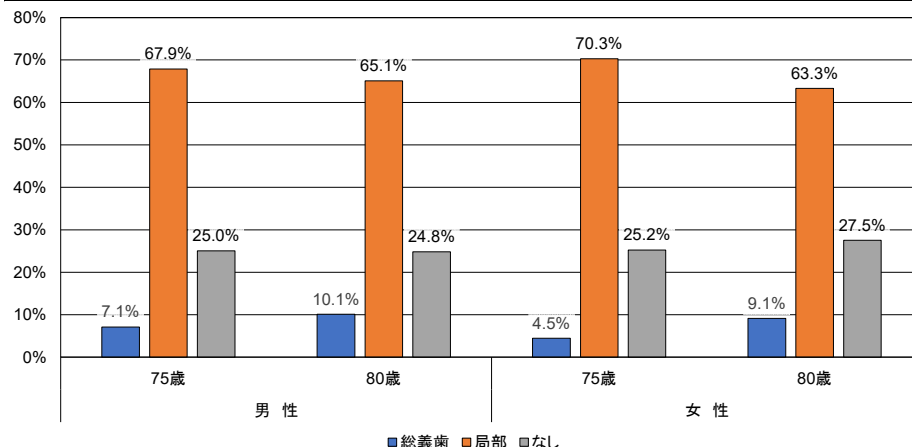
・義歯の部位(下顎)

総義歯の割合は上顎と同じく男性 80 歳が一番高かったが、約 10%と上顎と比べて半分以下であった。

局部床義歯の割合は年齢、性別に関係なく、6～7 割であった。

義歯未使用の者の割合は、性別に関係なく 25%前後であった。

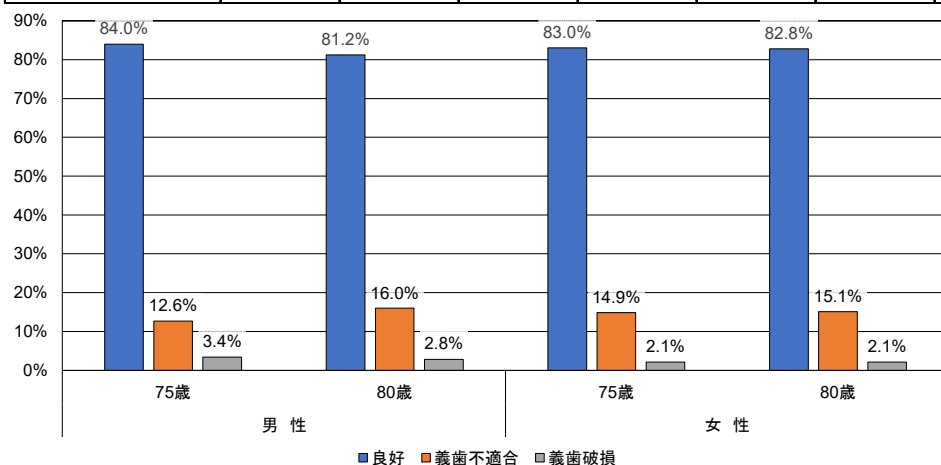
義歯の部位 (下顎)	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
総義歯	93	129	78	157	7.1%	10.1%	4.5%	9.1%
局部	889	829	1,231	1,088	67.9%	65.1%	70.3%	63.3%
なし	328	316	442	473	25.0%	24.8%	25.2%	27.5%



・義歯の適合状況(上顎)

年齢、性別に関係なく、8 割以上は義歯の適合状態が良好であり、不適合の者の割合は 15%前後であった。

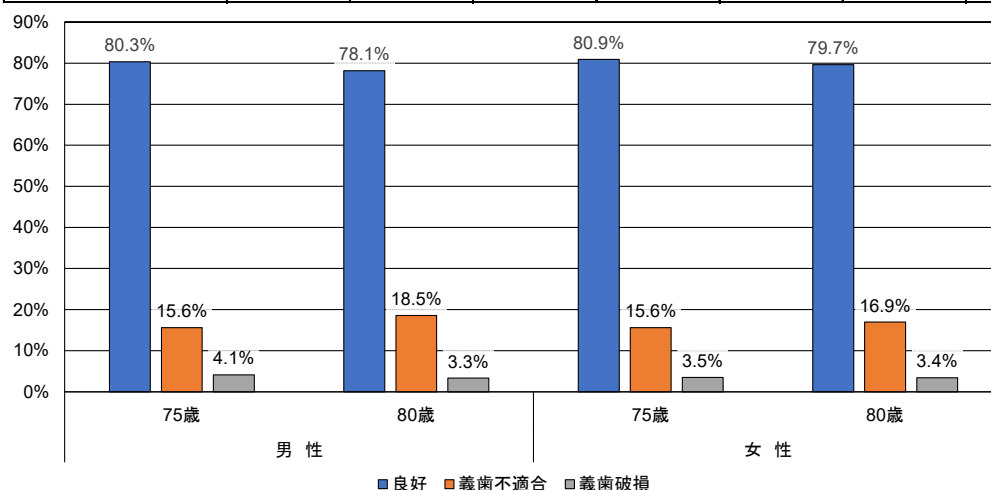
義歯の適合状況 (上顎)	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
良好	996	946	1,303	1,294	84.0%	81.2%	83.0%	82.8%
義歯不適合	150	186	233	236	12.6%	16.0%	14.9%	15.1%
義歯破損	40	33	33	33	3.4%	2.8%	2.1%	2.1%



・義歯の適合状況(下顎)

年齢、性別に関係なく、義歯の適合状態が良好の者の割合は 80%前後と、上顎と比べやや低かった。不適合の者の割合は、10%台後半であった。

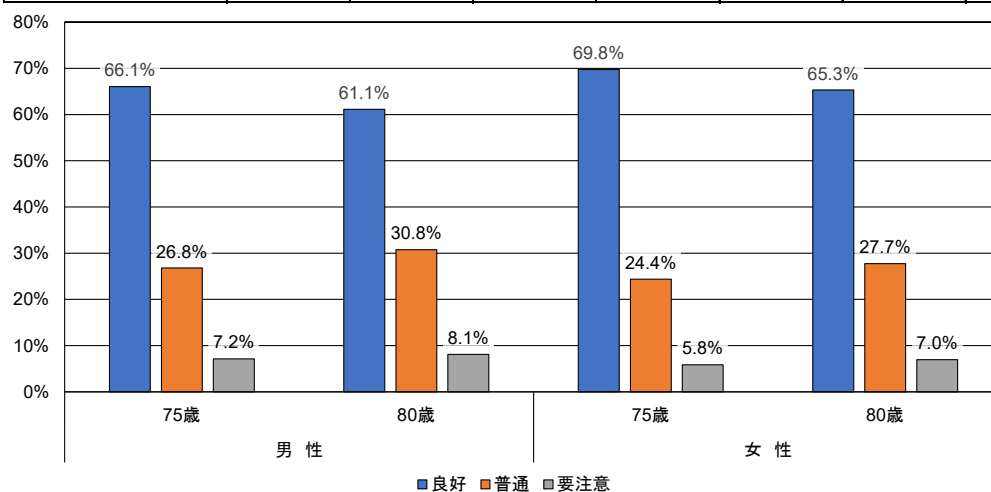
義歯の適合状況 (下顎)	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
良好	98	118	140	141	80.3%	78.1%	80.9%	79.7%
義歯不適合	19	28	27	30	15.6%	18.5%	15.6%	16.9%
義歯破損	5	5	6	6	4.1%	3.3%	3.5%	3.4%



・咬合の状態総合判定

年齢、性別に関係なく、咬合の状態が良好な者の割合は 6 割以上であった。一方で、咬合の状態が要注意な者の割合は 1 割弱であった。

咬合の状態 (総合判定)	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
良好	2,059	1,455	3,211	2,272	66.1%	61.1%	69.8%	65.3%
普通	835	732	1,123	965	26.8%	30.8%	24.4%	27.7%
要注意	223	193	269	242	7.2%	8.1%	5.8%	7.0%

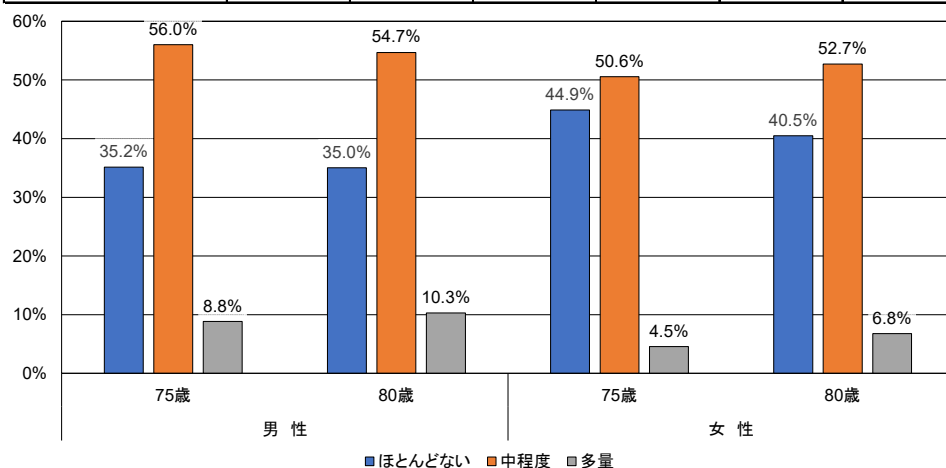


・口腔衛生状況(フ・ラーク)

プラークの付着がほとんどない者の割合は、男性が約 35%、女性が 40%以上と、女性の方が高かった。

プラークの付着が多い者の割合は男性が 10%前後、女性が 5%前後と、男性の方がやや高かった。

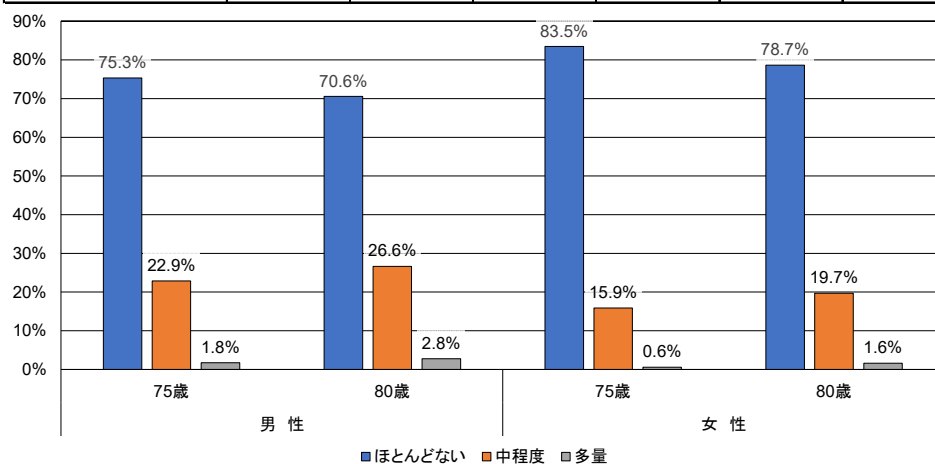
口腔衛生状況 (プラーク)	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
ほとんどない	1,181	890	2,210	1,499	35.2%	35.0%	44.9%	40.5%
中程度	1,882	1,390	2,490	1,951	56.0%	54.7%	50.6%	52.7%
多量	296	261	224	250	8.8%	10.3%	4.5%	6.8%



・口腔衛生状況(食渣)

食物残渣がほとんどない者の割合は、男性が 75%前後、女性が 80%前後と、女性の方がやや高かった。

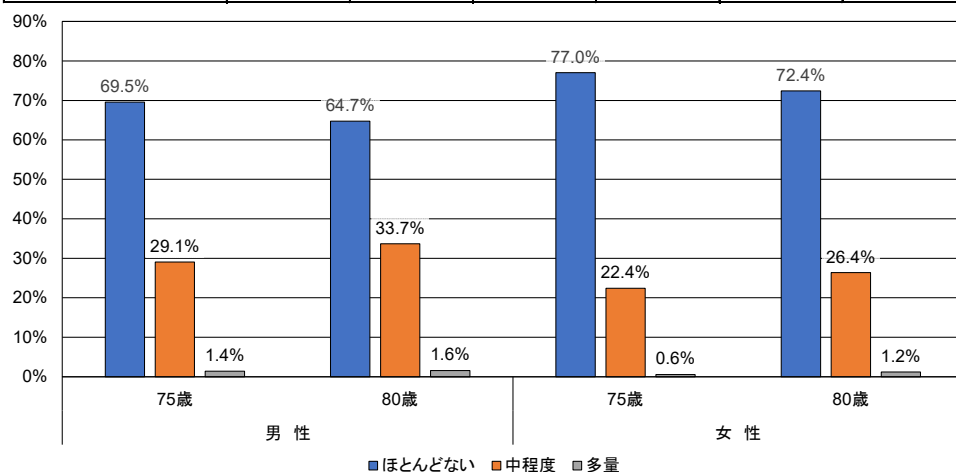
口腔衛生状況 (食渣)	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
ほとんどない	2,485	1,769	4,019	2,869	75.3%	70.6%	83.5%	78.7%
中程度	756	668	765	719	22.9%	26.6%	15.9%	19.7%
多量	58	70	30	59	1.8%	2.8%	0.6%	1.6%



・口腔衛生状況(舌苔)

舌苔がほとんどない者の割合は、男性が 70%未満、女性が 70%以上と、女性の方がやや高かった。

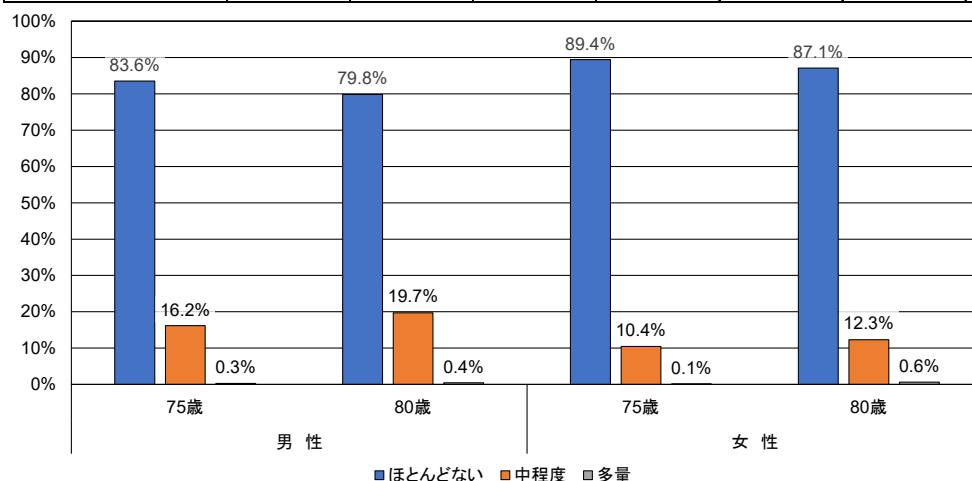
口腔衛生状況 (舌苔)	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
ほとんどない	2,338	1,653	3,782	2,692	69.5%	64.7%	77.0%	72.4%
中程度	977	860	1,100	982	29.1%	33.7%	22.4%	26.4%
多量	47	40	28	45	1.4%	1.6%	0.6%	1.2%



・口腔衛生状況(口臭)

口臭がほとんどない者の割合は、男性が 80%前後、女性が 90%近くと、女性の方がやや高かった。

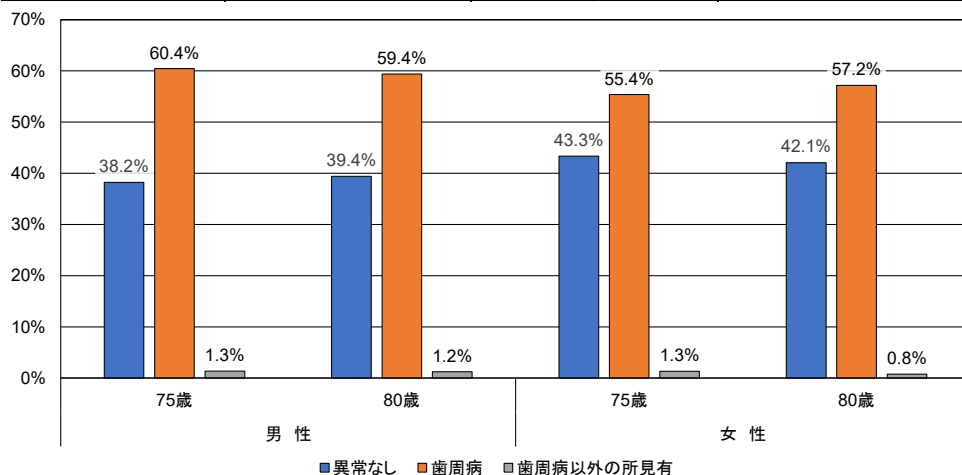
口腔衛生状況 (口臭)	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
ほとんどない	2,741	1,990	4,279	3,162	83.6%	79.8%	89.4%	87.1%
中程度	530	492	500	446	16.2%	19.7%	10.4%	12.3%
多量	9	11	6	22	0.3%	0.4%	0.1%	0.6%



・歯周組織の状態

歯周組織の異常がない者の割合は、男性が 40%未満、女性が 40%以上と、女性の方がやや高かった。

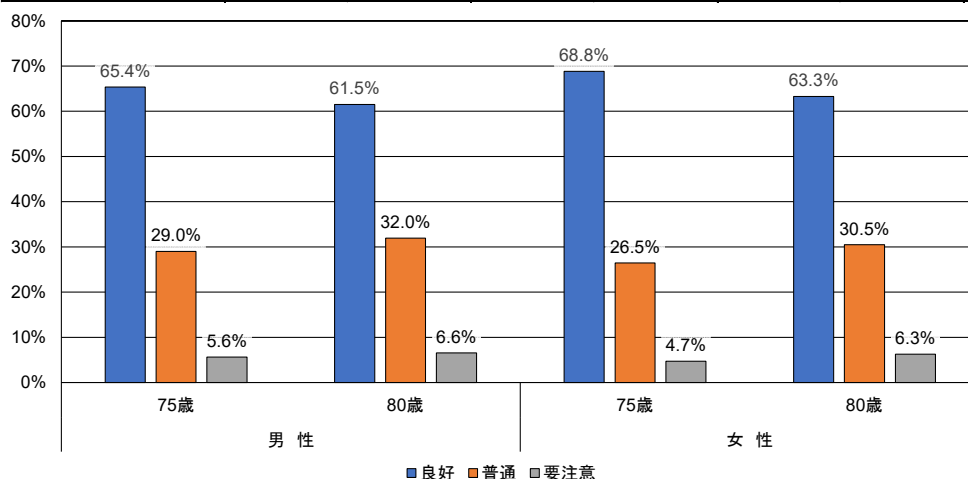
歯周組織の状況	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
異常なし	1,275	993	2,110	1,551	38.2%	39.4%	43.3%	42.1%
歯周病	2,017	1,496	2,697	2,107	60.4%	59.4%	55.4%	57.2%
歯周病以外の所見有	45	31	65	28	1.3%	1.2%	1.3%	0.8%



・咀嚼機能

咀嚼状態が良好な者の割合は、年齢に関係なく 60%以上であったが、女性の方が男性よりやや高い傾向にあった。

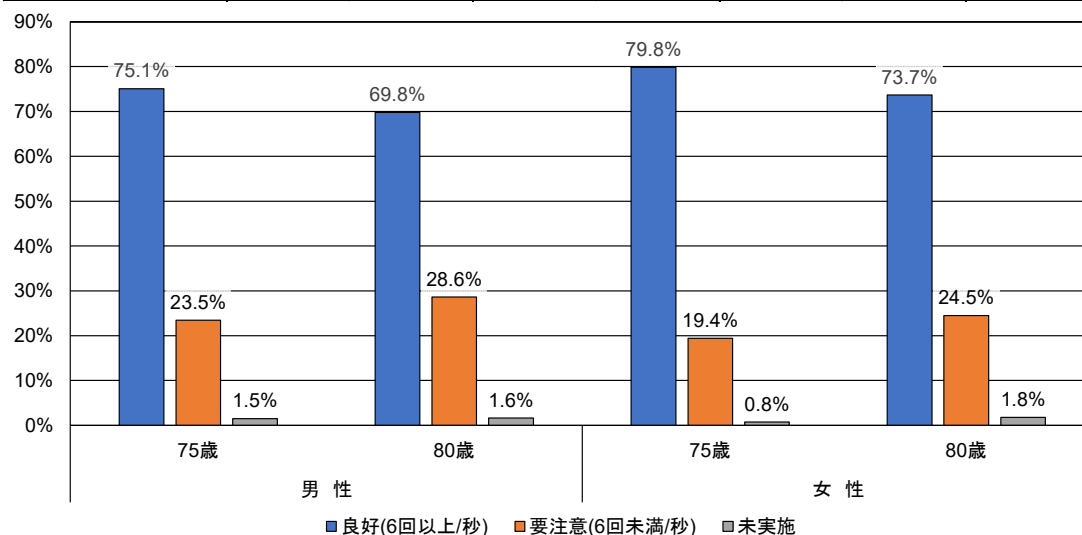
咀嚼機能	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
良好	2,190	1,562	3,359	2,343	65.4%	61.5%	68.8%	63.3%
普通	971	812	1,292	1,128	29.0%	32.0%	26.5%	30.5%
要注意	189	167	229	232	5.6%	6.6%	4.7%	6.3%



・滑舌の状態

滑舌が良好な者の割合は、年齢に関係なく、男性が 75.1%と 69.8%、女性が 79.8%と 73.7%と、女性の方が男性よりやや高い傾向にあった。

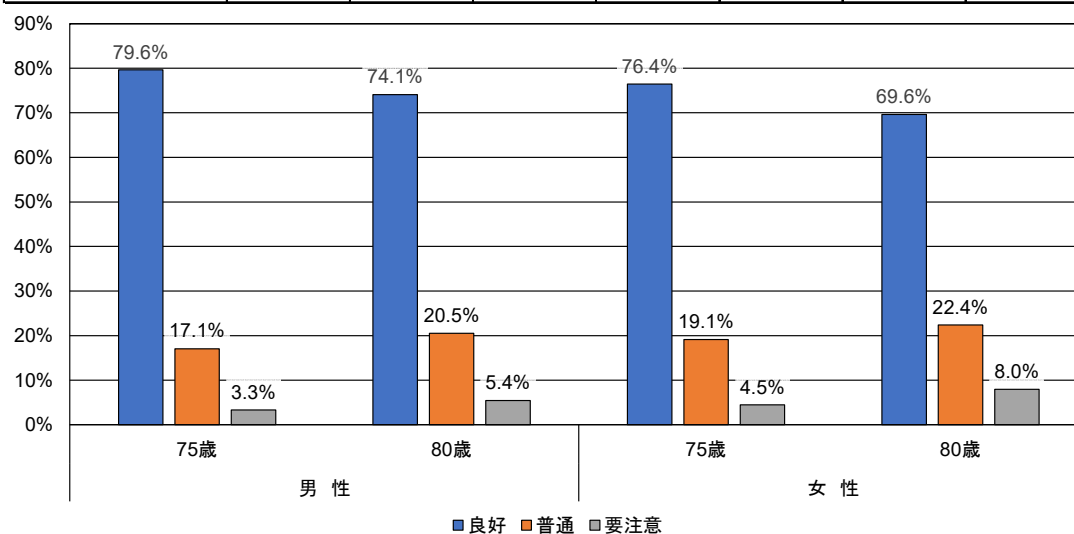
活舌の状態 (オーラル・イアト・コネクス)	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
良好(6回以上/秒)	2,506	1,782	3,894	2,724	75.1%	69.8%	79.8%	73.7%
要注意(6回未満/秒)	783	731	946	906	23.5%	28.6%	19.4%	24.5%
未実施	49	41	37	67	1.5%	1.6%	0.8%	1.8%



・嚥下機能

嚥下機能が良好な者の割合は、年齢に関係なく、男性が 79.8%と 74.1%、女性が 76.4%と 69.6%と、男性の方が女性よりやや高い傾向にあった。

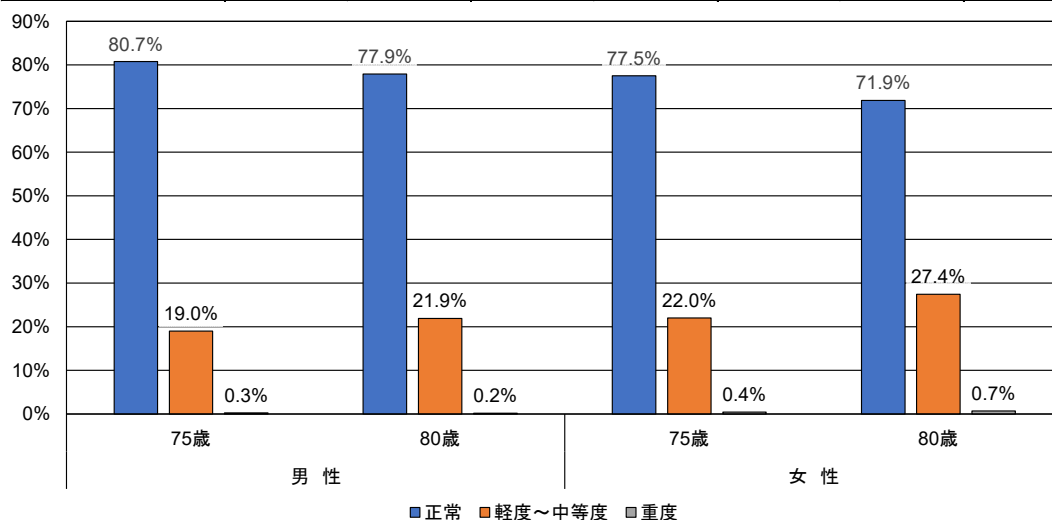
嚥下機能	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
良好	2,612	1,850	3,674	2,528	79.6%	74.1%	76.4%	69.6%
普通	560	512	919	814	17.1%	20.5%	19.1%	22.4%
要注意	109	135	214	290	3.3%	5.4%	4.5%	8.0%



・口腔乾燥

口腔乾燥については、男性で 20%前後、女性で 25%前後の者が軽度～中程度であり、その割合は女性の方が男性より高かった。

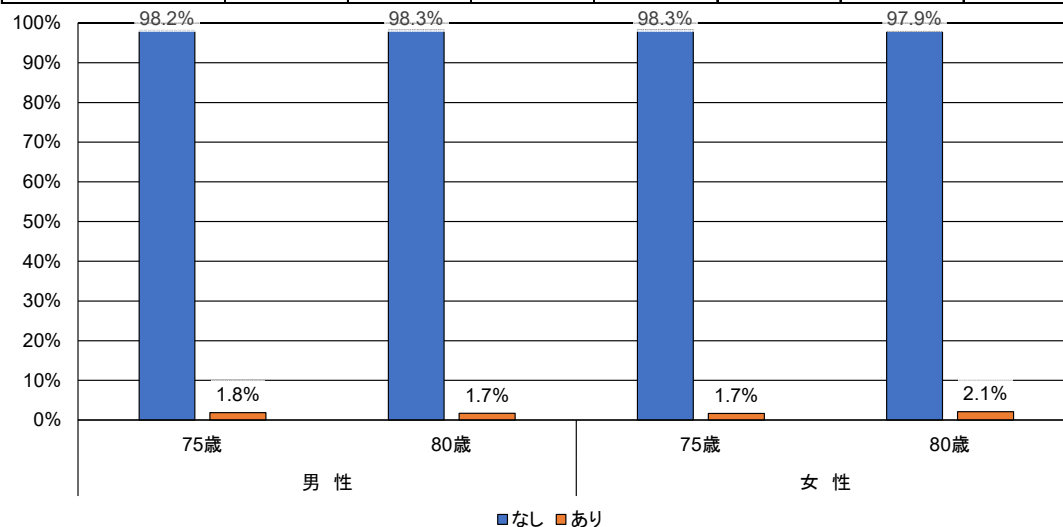
口腔乾燥	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
正常	2,713	1,993	3,796	2,672	80.7%	77.9%	77.5%	71.9%
軽度～中程度	638	560	1,078	1,020	19.0%	21.9%	22.0%	27.4%
重度	9	5	21	26	0.3%	0.2%	0.4%	0.7%



・粘膜の異常

粘膜の異常については、男女間にほとんど差はなく、異常ありが 2%程度であった。

粘膜の異常	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
なし	3,298	2,525	4,826	3,652	98.2%	98.3%	98.3%	97.9%
あり	62	44	81	79	1.8%	1.7%	1.7%	2.1%

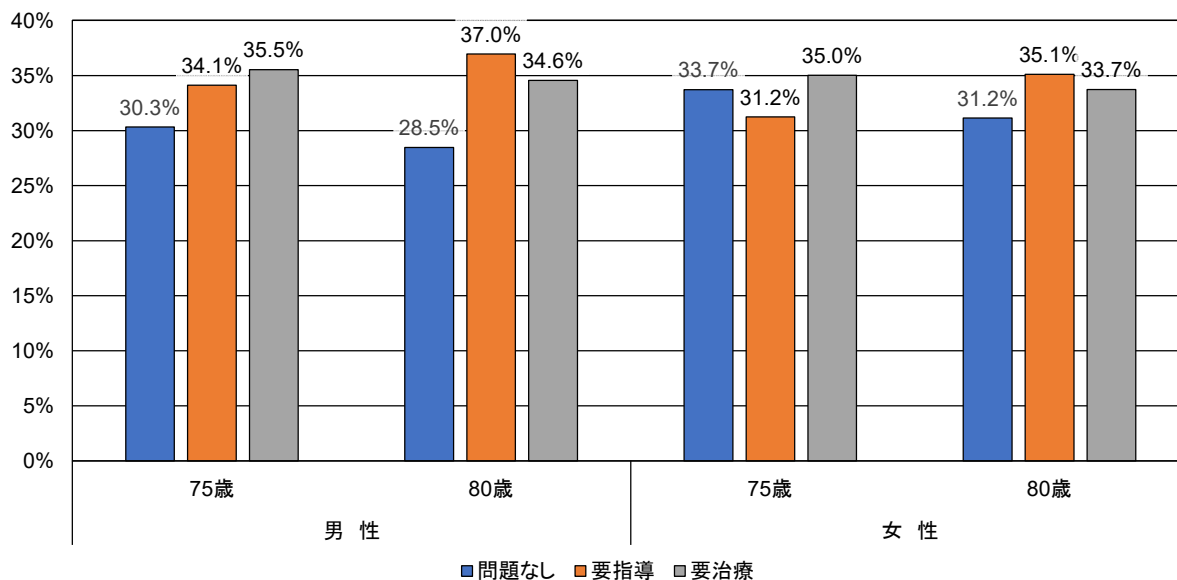


・健診結果

健診結果が異常なしの者の割合は、男性が30%前後、女性が30%以上と、女性の方が男性よりやや高かった。

要治療の者の割合は、男女とも3割を超えていた。

健診結果	男 性		女 性		男 性		女 性	
	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳	75歳	80歳
問題なし	1,015	724	1,650	1,150	30.3%	28.5%	33.7%	31.2%
要指導	1,142	940	1,529	1,296	34.1%	37.0%	31.2%	35.1%
要治療	1,189	879	1,715	1,245	35.5%	34.6%	35.0%	33.7%



まとめ・考察

後期高齢者歯科健診受診者の問診票回答状況

性別および年齢別の比較で、差がありそうなどの項目をあげてみる。

Q1 気になっている口腔症状

「噛み具合」は、男女とも 75 歳 12%台、80 歳 14%台と、80 歳の割合が 75 歳に比べて高かった。

「口元や前歯の見た目」は、男性約 5%、女性約 10%と女性の割合が男性に比べて約 2 倍高かった。

「口臭」は、女性 75 歳の割合が 12.9%と他の群に比べて高かった。また、女性の方が男性よりその割合が高かった。

「義歯(入れ歯)の具合が悪い」は、男女とも 75 歳約 7%、80 歳約 10%と、80 歳群の割合が 75 歳の群に比べて高かった。

Q2 入れ歯使用状況

「使っている」は、男女とも 75 歳 40%前後、80 歳 50%前後と、80 歳群の割合が 75 歳群に比べて高かった。

Q5 定期歯科健診の有無

「はい」は、男性 66%前後、女性 71%前後で女性の割合が男性より高かった。

Q6 有病状況

「高血圧」については、年齢別では、女性 75 歳が 42.6%、女性 80 歳が 48.4%と女性 80 歳の方が高かった。

「糖尿病」については、性別では、男性の方が女性より割合が高く、約 1.6 倍の差があった。年齢別では、男性が 75 歳 20%、男性 80 歳 17.8%と 75 歳の方が高かった。

「脳卒中」については、性別では、男性が 2%台、女性が 1%前後と、男性の方が女性より高かった。

「心臓病」については、性別では男性が 10%台、女性は 10%未満と男性の方が高かった。年齢別では男女とも 80 歳の方が高かった。

「がん」については、性別では、男性が 9%前後、女性は 4%前後と男性の方が高かった。年齢別では男女とも 80 歳の方が高かった。

「肺疾患」については、性別では男性が 4%前後、女性が 2%前後と男性の方が高かった。年齢別では男女とも 80 歳の方が高かった。

「骨粗鬆症」については、性別では、男性 1.1～1.8%、女性 14.7～18.8%と女性の割合が男性に比べて約 10 倍高かった。年齢別では男女とも 80 歳の方が高かった。

Q7 服薬数

男女間で比べると、1～4 剤までは一部を除いて、女性の方が男性より服用している割合がやや高かったが、5 剤以上になると逆に男性の方が女性より割合が高かった。

また、5 剤以上では男女とも 80 歳の方が 75 歳より割合が高かった。

Q8 喫煙の有無

「はい」は、男性 5.7～8.9%、女性 1.0～1.4%と男性の割合が女性に比べて約 6 倍高かった。

Q9 1 日 2 回以上歯磨き

「はい」は、男性 67.8～70.2%、女性 85.8～88.9%と女性の割合が男性に比べて高かった。

Q10 歯間ブラシ、フロスの使用状況

「はい」は、男性 53.3～57.1%、女性 69.8～75.0%と女性の割合が男性に比べて高かった。

Q12 汁物でむせることがあるか

「はい」は、男性 22.3～25.8%、女性 27.0～29.1%と女性の割合が男性に比べて高かった。

Q13 口の渇きが気になるか

「はい」は、男性 75 歳 24.6%、80 歳 26.8%に対して、女性 75 歳 28.1%、80 歳 31.7%と、80 歳の割合が 75 歳にくらべて高かった。また、女性の方が男性に比べて「はい」と回答した者の割合が少し高かった。

上記の結果を性別と年齢別にもう少し詳細に検討してみたい。

【性別の比較】

男女間で最も差が大きかった項目は有病状況での「骨粗鬆症」で、約 10 倍の差があった。一方で、「糖尿病」「心臓病」「がん」「肺疾患」については男性の方が女性よりその割合が高かった。また、「服薬数」も 5 剤以上からは、男性の方が高かった。これらの結果は、男性より女性の方が平均寿命は長いという理由の一つであるかもしれない。

比較的男女間の差が大きかったのは口腔状況の「口元や前歯の見た目」で、約 2 倍の差があった。一方で、「口の渇きが気になるか」の回答で「はい」と回答した者の割合は女性が男性より少し高かったが、それほど大きな差はなかった。

その他に特徴的な項目としては、「1 日 2 回以上歯磨き」と「歯間ブラシ、フロスの使用状況」において、女性が男性より「はい」との回答の割合が高く、口腔衛生の意識は女性の方が高い傾向にあることが分かった。

一方「喫煙」については「はい」と回答した者の割合は男性の方が約 6 倍も高かった。喫煙が歯周病のリスクを高める因子であることはよく知られている。「定期歯科健診の有無」で「はい」と回答した者の割合が女性の方が高かったことや、先ほどの口腔衛生の意識の高さを加味すると、歯周病に関しては女性の方が優秀と思われる回答状況であった。

逆に、「汁物でむせることがあるか」と「口臭」の 2 項目については男性の方が成績は良かった。「汁物でむせることがあるか」については口腔機能の衰えに性差があることを示唆しているかもしれない。「口臭」については口腔の乾燥が影響を及ぼしている可能性が考えられる。

【年齢別の比較】

年齢別で差があった項目は、主に義歯に関するものと「有病状況」、それから「噛み具合」や「汁物でむせることがあるか」というような口腔機能に関すると思われるものであった。「有病状況」においては、ほとんどが 75 歳より 80 歳の方がその割合は高いが、唯一「糖尿病」は、男性 75 歳の方が高かった。

また、「口の渇きが気になるか」も年齢別に差があり、これには加齢による唾液分泌量の低下が影響している可能性があると思われる。

最後に、上記以外で、興味深かった質問項目を列挙する。

Q2 入れ歯使用状況において、「持っているが使っていない」と回答した者の割合は年齢、性別に関係なく 3% 台であった。

Q3 奥歯でかみしめられるかにおいて、「はい」との回答の割合は年齢、性別に関係なく 85% 前後であった。

Q4 かかりつけ歯科医院の有無において、「はい」との回答の割合は年齢、性別に関係なく 93% 前後であった。

Q11 半年前に比べて固いものがかみにくくなったかにおいて、「はい」との回答の割合は年齢、性別に関係なく約 30% であった。

Q14 週 1 回外出しているかにおいて、「はい」との回答の割合は年齢、性別に関係なく 94% 前後であった。

Q15 2～3kg の体重減少において、「はい」との回答の割合は年齢、性別に関係なく 14% 前後であった。

Q16 発熱の有無において、「はい」との回答の割合は年齢、性別に関係なく 5% 台であった。

今回の質問回答の割合を比べたときの「高い」「低い」は、統計的に有意差があったというものではない。今後、男性 75 歳、男性 80 歳、女性 75 歳、女性 80 歳、と 4 つのグループ分けしたうえで統計学的に検定するとより詳細な分析が出来るのではないかと思われた。

また、今回は各質問項目のみの分析であったが、例えば「服薬数」と「口の渇きが気になるか」の 2 つの質問項目に関連性があるのか調べてみるのも興味深いと思われた。

後期高齢者歯科健診受診者の口腔状況

【歯の状況について】

本調査では、現在歯数が 28 本以上の者は、75 歳の男性 22.9%、女性 19.7%で、80 歳の男性 18.3%、女性 15.4%であり、その割合は男性の方が女性より高かった。

一方、現在歯数が 20 本以上の者となると、75 歳の男性 73.1%、女性 78.2%で 80 歳の男性 63.9%、女性 67.8%となり、逆にその割合は女性の方が男性より高くなっている。

ちなみに、令和 4 年歯科疾患実態調査の概要によると、20 本以上の歯を有する者の割合は、70～74 歳の男性 69.9%、女性 74.0%で 75～79 歳の男性 53.7%、女性 57.8%そして 80～84 歳の男性 45.5%、女性 45.7%となっており女性の方が男性より高い。

歯科疾患実態調査の被調査者数は 70～74 歳が 305 人、75～79 歳が 258 人と本調査より少なく、年齢階級での分類なので一概に比べることはできないが、現在歯数が 20 本以上の者の割合は本調査の方が少し高いように見える。

機能歯数に関しては、「0～19 歯」の者の割合が、年齢、性別に関係なく 3%以下であり、かなりの者が補綴治療して機能歯を増やしているような印象を受ける。

機能歯数について、以下にもう少し詳細に分析する。

まず、「現在歯数別機能歯数 28 歯以上の者の割合」の棒グラフであるが、年齢、性別に関係なく、現在歯数 0 歯で 80～90%で、そこから現在歯数が増えるにつれてその割合は減少している。そして棒グラフの曲線は現在歯数 21～23 歯で底をうち、現在歯数 27 歯ではその割合は 50%を超えている。

現在歯数 0 歯および多数歯欠損の場合、義歯による補綴治療が主になるケースが多いので機能歯数が 28 本以上の割合が高いことは納得できる。

一方、現在歯数 15～25 歯ではその割合がやや低いように思われた。

この理由の一つに、義歯は作成したが使用していない者の存在が考えられる。ただし、今回の問診表の Q2「入れ歯の使用状況」からのデータでは、「持っているが使っていない」と回答した者の割合は約 3%であり思ったより少ない値であった。

一方で、歯の状況(機能歯数分類)のデータでは、機能歯数が 20 歯未満の者の割合は僅か 2～3%であるので、現在歯数が 20 歯未満の者でも、何らかの補綴的処置が施されており、そのまま放置している者は思っていたより少ない。ということは、補綴処置を行う上で機能歯数 28 歯という数字には必ずしもこだわっていないことが想像される。

次に、「現在歯数と機能歯数が同じ者の割合」の棒グラフでは、年齢、性別に多少違いがあるが、現在歯数 25 歯あたりからその割合が 20%前後となり、現在歯数 26 歯では 30%前後、現在歯数 27 歯では 40%を超えている。特に、現在歯数 27 歯の場合、「機能歯数 28 歯以上の者」の割合が 50%台であったことから、現在歯数 27 歯の者の約半数は、機能歯を増やさずそのままの状態であるということが分かった。

現在歯数が 20 本の後半(27 本以下)では、機能歯を増やさなくてもあまりさしきわらないと思っ

ている者がいくらか存在しており、このことも理由の一つと思われる。

「未処置歯の有無」と「根面う蝕の有無」のデータから、未処置歯に占める根面う蝕の割合は、男性では未処置歯の 4 割以上、女性では 4 割前後と推測でき、かなり高い割合となっている。

根面う蝕に関しては、香川県歯科医師会でも高齢者歯科保健部が令和 5 年度香川県「口腔健康管理と全身状態、医療及び介護状況に関する調査」報告書で詳細に報告している。その報告書のデータから算出すると、根面う蝕を有する者の割合は、75～79 歳の男性 18.1%、女性 12.7%で、80～84 歳の男性 10.9%、女性 14.3%であり、本調査の値もほぼ同じ 10%台であった。

【義歯について】

義歯を使用している者の割合は、75 歳は男女とも 30%台後半、80 歳は 40%台後半で、義歯を使用していない者の割合は、75 歳男女は約 60%、80 歳は約 50%であった。

義歯の種類は、局部床義歯は年齢、性別に関係なく上顎は 6 割、下顎は 6～7 割と、下顎の方が

やや高かった。また、逆に総義歯は年齢、性別に関係なく、上顎が下顎よりその割合が約 2 倍と、上顎の方が高かった。

このことは、歯科疾患で歯を失っていく際に、最後には下顎の前歯部が残存している場合が多い傾向にあることを裏付けているかもしれない。

義歯の不適合と破損は、ほんの少しだが下顎の方が上顎よりその割合が高いように見える。その理由は、おそらく義歯床の大きさや形態の違いによるものと思われる。

【口腔衛生状況について】

プラークの付着、食物残渣、舌苔、口臭については、それぞれ女性の方が男性よりも「ほとんどない」者の割合がやや高く、成績が良かった。

歯周組織に異常がない者の割合も、僅差ではあるが女性の方が男性より高かった。

【口腔機能について】

咀嚼機能と嚥下機能については、「良好」な者の割合は、男性の方が女性よりやや高かった。

一方、滑舌の状態については、「良好」な者の割合は女性の方が男性よりやや高く、粘膜の異常については、性別にほとんど差は無く 100%近くが「異状なし」であった。

咀嚼機能、嚥下機能、滑舌の状態については、年齢を比較すると、「要注意」の者の割合は 80 歳の方が 75 歳より高かった。これには、年齢を重ねると運動機能が低下することが影響していると思われる。

口腔乾燥については、「軽度～中程度」の者の割合が、女性で 25%前後、男性で 20%前後と少し男女間で開きがあった。

令和 5 年度香川県「高齢者における口腔乾燥症と全身の健康状態、医療及び介護状況に関する調査」報告書においても、「口が渇くと感じたことがありますか？」という質問項目に「常にある」あるいは「時々ある」と回答した者の割合は、男性よりも女性の方が高かった。

この理由として、例えばシェーグレン症候群は、患者の男女比が女性 4 に対して男性 1 と、女性が圧倒的に多い疾患であることなどが考えられる。

健診結果については、「問題なし」「要指導」「要注意」の者の割合が、ほぼ 1:1:1 であり、「要指導」と「要治療」の者の割合を合わせると約 70%と、その割合はかなり高いように思えた。

Ⅱ 歯科問診項目問4「かかりつけの歯科医院がありますか」の回答状況別医科医療費

一 調査の概要

1 分析目的、対象者および分析方法

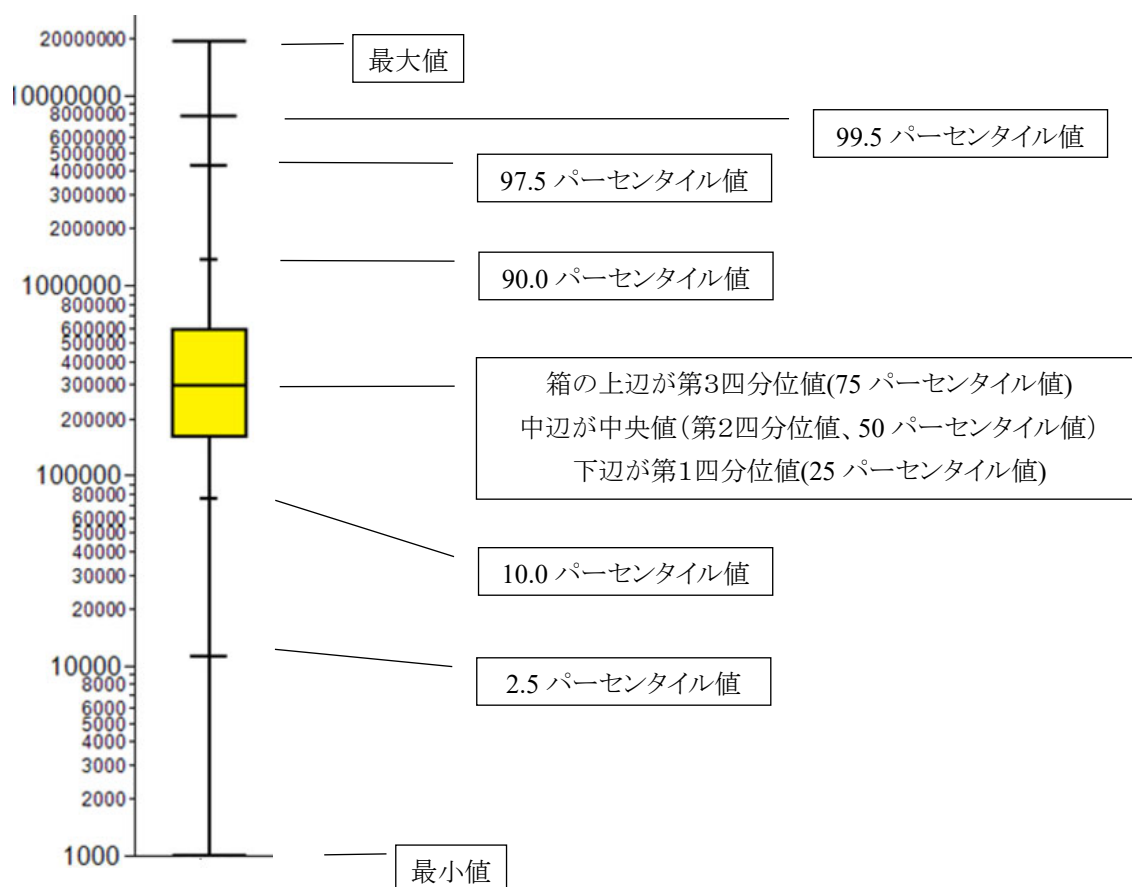
かかりつけ歯科医を持っている人とそうでない人の医療費を比較することで、かかりつけ歯科医を持つことが全身の健康に及ぼす影響について分析することを目的とした。

令和3、4、5年度に75歳と80歳を対象として実施した後期高齢歯科健診受診者の問診票の回答および香川県国民健康保険団体連合会および香川県後期高齢者医療広域連合の協力を得て同年度のKDBデータを入手した。

健診受診年度と当該年度の医療費を紐付け、3年分をまとめて分析した。医科診療費、DPC診療費、調剤費を合わせて医科医療費とした。性別年齢別に集計し、医療を受診していない者も含めて、一人当たりの医科医療費の最小値、最大値、四分位値を求めた。統計的検定はJMP18(SAS Institute Japan 株式会社)を使用した。医療費は正規分布しないため、2群の比較はWilcoxon検定を用い、有意水準は0.05とした。

参考: 報告書に記載している箱ひげ図について説明する。

目盛り軸が対数になっていることに留意

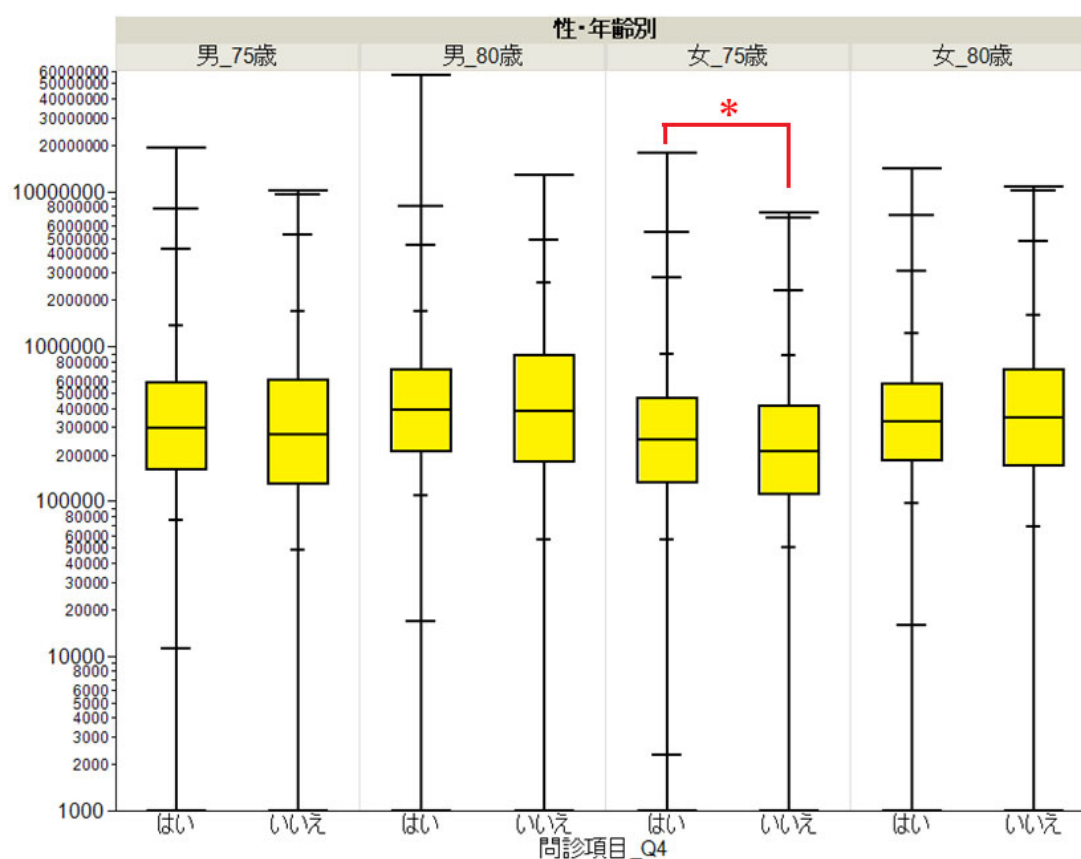


二 調査・分析結果

(1) 後期高齢者歯科健診問4「かかりつけの歯科医院がありますか」の回答状況別医科医療費

女性 75 歳において、統計学的に有意差が認められ、かかりつけ歯科医院を持たない方が医療費が低かった。男性 75 歳・男性 80 歳・女性 80 歳では、有意差は認められなかった。

性・年齢	回 答	人数 (人)	医科医療費(一人当たり/年間(円))					Wilcoxon検定 p値
			最小値	第1四分位値	中央値	第3四分位値	最大値	
男性75歳	はい	3,079	0	160,100	295,700	580,600	19,337,400	0.2425
	いいえ	260	0	129,100	271,300	608,700	10,066,100	
男性80歳	はい	2,357	0	208,900	386,100	714,400	56,131,500	0.9389
	いいえ	178	0	180,500	383,800	874,500	12,782,200	
女性75歳	はい	4,591	0	131,800	248,300	459,900	17,674,000	0.0381
	いいえ	285	0	110,900	210,500	413,600	7,278,400	
女性80歳	はい	3,463	0	182,000	326,400	577,000	14,140,200	0.6824
	いいえ	232	0	169,300	347,500	713,500	10,710,200	



まとめ・考察

女性 75 歳において、統計学的に有意差が認められたものの、予想に反してかかりつけ歯科医院を持たない方が医療費が低くなった。また男性 75 歳・男性 80 歳・女性 80 歳では、統計学的に有意差が認められなかった。つまり、かかりつけ歯科医院を持つことと医療費にほとんど相関関係はないという結果になった。理由として、かかりつけ歯科医院を持っているか否かは、個人の考え方や意識の問題であって、健康管理とは結びつかないのかも知れない。しかし、圧倒的にかかりつけ歯科医院を持っていると回答した人数が多く、この結果が口腔ならび全身へどのように良い影響を与えていくか引き続き医療費以外の多方面でも調査していく必要がある。

もう一つの理由として、かかりつけ歯科医院を持っている人数と持たない人数に大きな乖離があったため、有意差までは認めなかったのかも知れない。

Ⅲ 現在歯数別における機能歯数と医科医療費の関係

一 調査の概要

1 分析目的、対象者および分析方法

欠損放置している人と欠損補綴している人の医療費を比較することで、欠損補綴が全身の健康に及ぼす影響について分析することを目的とした。

令和 3、4、5 年度に 75 歳と 80 歳を対象として実施した後期高齢歯科健診受診者の問診票の回答および香川県国民健康保険団体連合会および香川県後期高齢者医療広域連合の協力を得て同年度の KDB データを入手した。健診受診年度と当該年度の医療費を紐付け、3 年分をまとめて分析した。医科診療費、DPC 診療費、調剤費を合わせて医科医療費とした。性別年齢別に集計し、医療を受診していない者も含めて、一人当たりの医科医療費の最小値、最大値、四分位値を求め、箱ひげ図は対数目盛軸を用いて作成した。統計的検定は JMP18(SAS Institute Japan 株式会社)を使用した。医療費等は正規分布しないため、多群それぞれについて多重比較する Steel-Dwass 検定を用い、有意水準は 0.05 とした。なお、健診票をもとに、現在歯数よりも機能歯数が少ないものを除外して分析した。

2 分析対象者の分類

- ・現在歯数を用いて、以下の4分類とした。

0~9 齒、10~19 齒、20~27 齒、28 齒以上

- ・また、現在歯数と機能歯数を用いて、以下の4区分とした。

区分1 : 欠損放置群(現在歯数と機能歯数が同じ)

区分2：一部補綴群(現在歯数より機能歯数の方が多いが28歯ではない)

区分3：補綴群(現在歯数が27歯以下で機能歯数が28歯以上)

区分 4 : 現在歯数が 28 歯以上群

[illegible]

3 分析の視点

以下の二つの視点で分析を行った。

- (1) 現在歯数分類別に機能歯数区分 1～4 間の医科医療費の比較 : 分析 1
(2) 機能歯数 28 歯以上者を対象に現在歯数分類間の医科医療費の比較 : 分析 2

二 調查・分析結果

(1) 現在歯数分類別に区分1～4間の医科医療費の比較：分析1

①分析对象者数

	現在歯数	総数	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4
男_75歳	0～9歯	298	18	64	216	
	10～19歯	591	33	275	283	
	20～27歯	1,655	408	563	684	
	28歯以上	754				754
男_80歳	0～9歯	381	27	69	285	
	10～19歯	529	27	229	273	
	20～27歯	1,151	267	404	480	
	28歯以上	461				461
女_75歳	0～9歯	259	16	56	187	
	10～19歯	784	45	383	356	
	20～27歯	2,801	624	1,008	1,169	
	28歯以上	945				945
女_80歳	0～9歯	432	11	79	342	
	10～19歯	784	38	378	368	
	20～27歯	1,886	427	742	717	
	28歯以上	564				564

区分 1 : 欠損放置群(現在歯数と機能歯数が同じ)

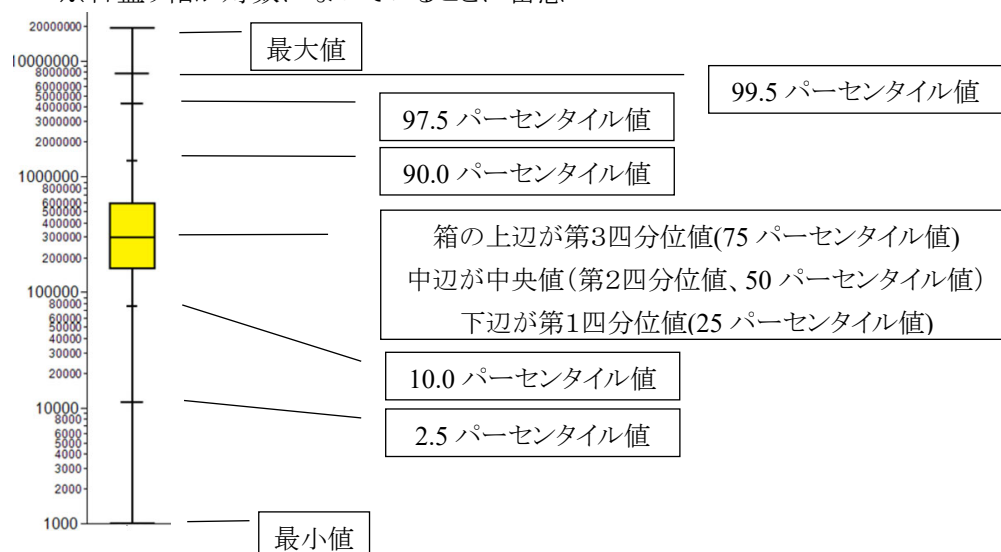
区分 2 : 一部補綴群(現在歯数より機能歯数の方が多いが 28 歯ではない)

区分 3 : 補綴群(現在歯数が 27 歯以下で機能歯数が 28 歯以上)

区分 4 : 現在歯数が 28 歯以上群

参考:箱ひげ図について

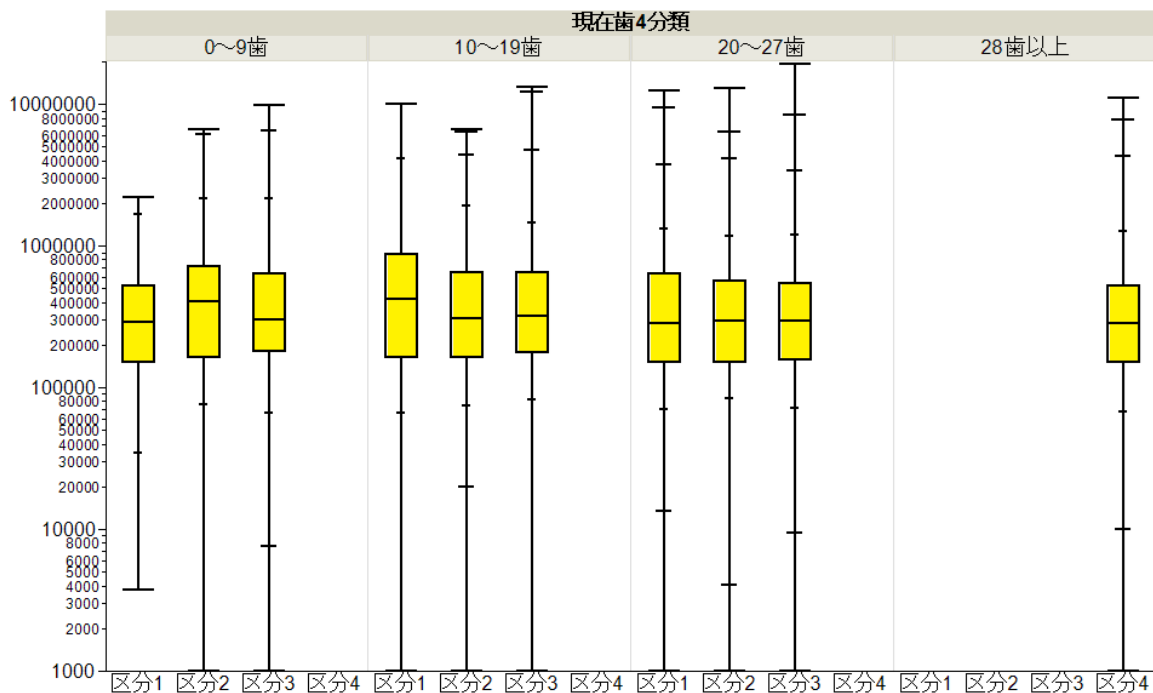
※目盛り軸が対数になっていることに留意



②-1 現在歯数分類別に区分1～4間の歯科医療費の比較(男性75歳)

すべての現在歯数分類別において、区分1～4間の歯科医療費を比較し、統計的に有意な差は認められなかった。28歯以上の区分4において、中央値283,400円が最も低い値を示した。また、10～19歯の区分1において、中央値425,900円が最も高い値を示した。

性・年齢	現在歯数	区分	人数 (人)	歯科医療費(一人当たり/年間(円))				
				最小値	第1四分位値	中央値	第3四分位値	最大値
男性75歳	0～9歯	区分1	18	3,800	150,600	292,700	522,600	2,189,300
		区分2	64	0	162,300	403,600	723,500	6,626,600
		区分3	216	0	180,300	300,600	639,100	9,861,700
	10～19歯	区分1	33	0	162,700	425,900	870,000	10,066,100
		区分2	275	0	165,000	307,100	654,400	6,615,000
		区分3	283	0	177,900	322,100	655,800	13,308,300
	20～27歯	区分1	408	0	152,900	284,100	633,100	12,560,900
		区分2	563	0	152,600	296,400	568,600	12,974,300
		区分3	684	0	158,500	293,300	550,200	19,337,400
	28歯以上	区分4	754	0	150,500	283,400	526,600	11,031,000



性・年齢	現在歯数	区分の組み合わせ	p値
男性75歳	0～9歯	区分1 ⇔ 区分2	0.6107
		区分1 ⇔ 区分3	0.8543
		区分2 ⇔ 区分3	0.7381
	10～19歯	区分1 ⇔ 区分2	0.7615
		区分1 ⇔ 区分3	0.9221
		区分2 ⇔ 区分3	0.7748
	20～27歯	区分1 ⇔ 区分2	0.9996
		区分1 ⇔ 区分3	0.9699
		区分2 ⇔ 区分3	0.9629

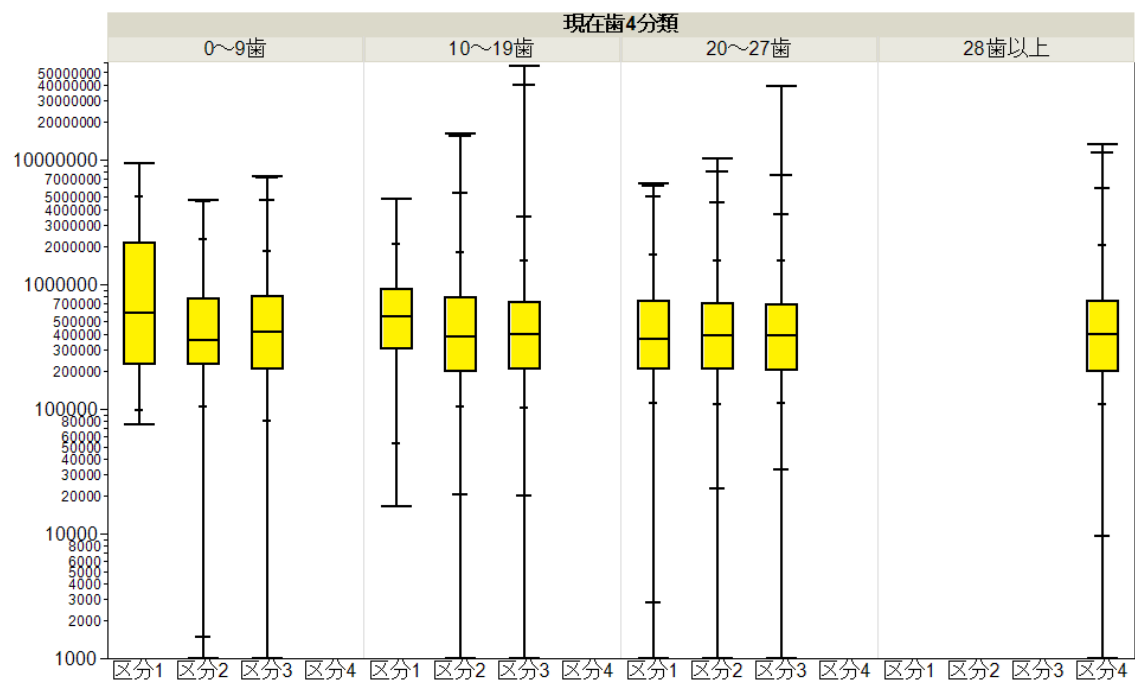
区分1:欠損放置群
 区分2:一部補綴群
 区分3:補綴群
 区分4:現在歯数が28歯以上群

Steel-Dwass 検定

②-2 現在歯数分類別に区分 1～4 間の歯科医療費の比較(男性 80 歳)

すべての現在歯数分類別において、区分 1～4 間の歯科医療費を比較し、統計的に有意な差は認められなかった。0～9 歯の区分 1 において、中央値 589,000 円が最も高い値を示した。さらに、10～19 歯の区分 1 において、中央値 548,600 円と次に高い値を示した。

性・年齢	現在歯数	区 分	人数 (人)	歯科医療費(一人当たり/年間(円))				
				最小値	第 1 四分位値	中央値	第 3 四分位値	最大値
男性80歳	0～9歯	区分1	27	74,300	227,900	589,000	2,138,900	9,325,400
		区分2	69	0	227,200	354,200	761,100	4,702,400
		区分3	285	0	210,400	415,600	794,600	7,239,300
	10～19歯	区分1	27	16,500	306,600	548,600	918,700	4,811,200
		区分2	229	0	202,200	381,500	787,100	16,174,400
		区分3	273	0	211,900	397,600	710,200	56,131,500
	20～27歯	区分1	267	0	208,600	364,900	726,100	6,399,900
		区分2	404	0	208,100	385,200	699,100	10,214,400
		区分3	480	0	204,500	384,500	682,500	39,017,900
	28歯以上	区分4	461	0	202,400	399,100	727,600	13,213,100



性・年齢	現在歯数	区分の組み合わせ	p値
男性80歳	0～9歯	区分1 ⇔ 区分2	0.2575
		区分1 ⇔ 区分3	0.2571
		区分2 ⇔ 区分3	0.8851
	10～19歯	区分1 ⇔ 区分2	0.3784
		区分1 ⇔ 区分3	0.3288
		区分2 ⇔ 区分3	0.9997
	20～27歯	区分1 ⇔ 区分2	0.9926
		区分1 ⇔ 区分3	0.9946
		区分2 ⇔ 区分3	1.0000

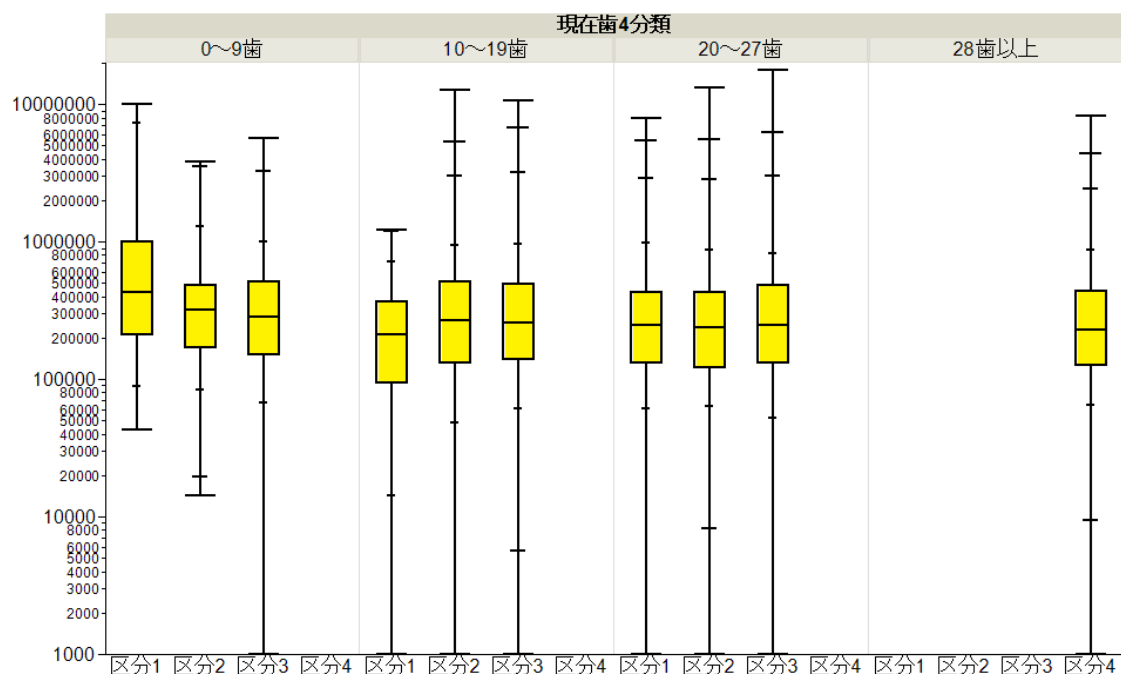
区分 1: 欠損放置群
 区分 2: 一部補綴群
 区分 3: 補綴群
 区分 4: 現在歯数が 28 歯以上群

Steel-Dwass 検定

②-3 現在歯数分類別に区分1～4間の歯科医療費の比較(女性 75 歳)

すべての現在歯数分類別において、区分 1～4 間の歯科医療費を比較し、有意な差は認められなかった。0～9 歯の区分 1 において、中央値が 432,000 円で最も高い値を示した。

性・年齢	現在歯数	区 分	人数 (人)	歯科医療費(一人当たり/年間(円))				
				最小値	第 1 四分位値	中央値	第 3 四分位値	最大値
女性75歳	0～9歯	区分1	16	42,800	211,100	432,000	1,010,700	9,955,400
		区分2	56	14,300	169,200	321,600	484,100	3,850,000
		区分3	187	0	152,800	283,800	510,700	5,688,700
	10～19歯	区分1	45	0	94,800	210,100	368,300	1,216,900
		区分2	383	0	130,800	269,300	514,600	12,798,900
		区分3	356	0	139,600	256,500	489,600	10,660,200
	20～27歯	区分1	624	0	132,400	246,500	429,300	7,916,600
		区分2	1008	0	122,300	237,900	430,300	13,343,000
		区分3	1169	0	130,800	246,700	479,500	17,674,000
	28歯以上	区分4	945	0	126,400	229,400	441,800	8,301,500



性・年齢	現在歯数	区分の組み合わせ	p値
女性75歳	0～9歯	区分1 ⇔ 区分2	0.2990
		区分1 ⇔ 区分3	0.1951
		区分2 ⇔ 区分3	0.9250
	10～19歯	区分1 ⇔ 区分2	0.2920
		区分1 ⇔ 区分3	0.2792
		区分2 ⇔ 区分3	1.0000
	20～27歯	区分1 ⇔ 区分2	0.9787
		区分1 ⇔ 区分3	0.9104
		区分2 ⇔ 区分3	0.7773

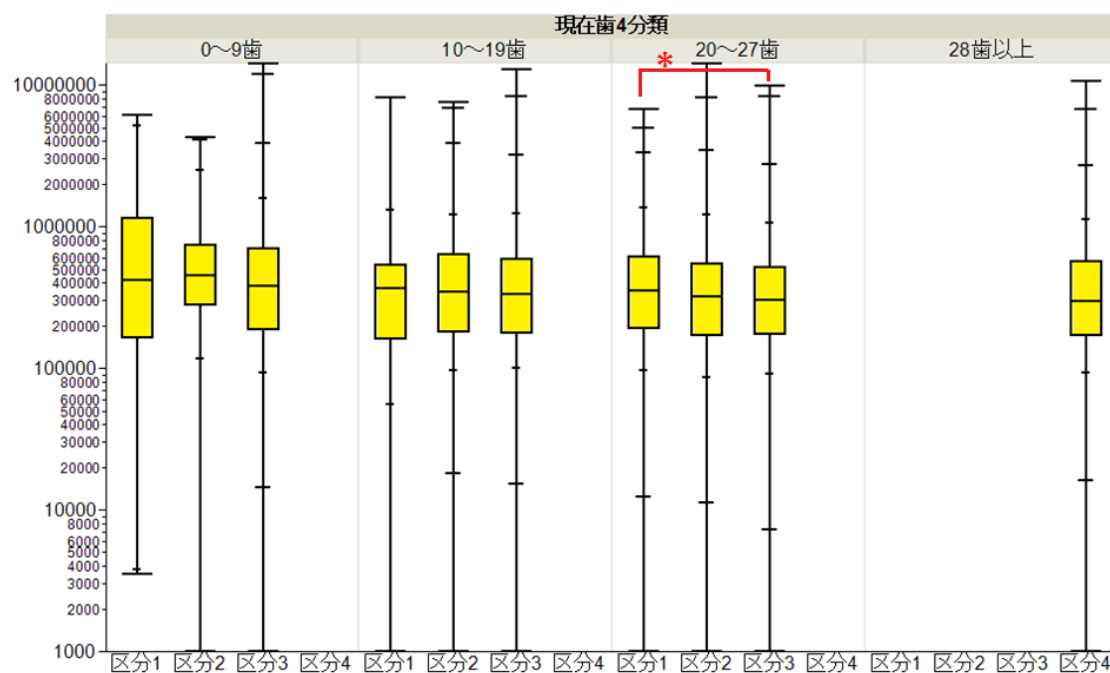
区分 1: 欠損放置群
 区分 2: 一部補綴群
 区分 3: 補綴群
 区分 4: 現在歯数が 28 歯以上群

Steel-Dwass 検定

②-4 現在歯数分類別に区分1～4間の歯科医療費の比較(女性 80 歳)

20～27 歯において、区分 1 が区分 3 よりも歯科医療費が有意に高い結果となった。ほかの区分間において、統計学的に有意な差は認められなかった。28 歯以上の区分 4 において、中央値 297,700 円が最も低い値を示した。また、0～9 歯および 10～19 歯において、区分 1 および 2 が区分 3 よりも中央値が高い値を示した。

性・年齢	現在歯数	区 分	人数 (人)	歯科医療費(一人当たり/年間(円))				
				最小値	第 1 四分位値	中央値	第 3 四分位値	最大値
女性80歳	0～9歯	区分1	11	3,500	164,200	420,900	1,136,600	6,165,900
		区分2	79	0	279,700	451,000	736,700	4,250,400
		区分3	342	0	189,000	377,900	693,200	14,140,200
	10～19歯	区分1	38	0	161,400	367,400	530,100	8,173,300
		区分2	378	0	181,200	343,500	634,400	7,505,600
		区分3	368	0	178,500	329,700	584,600	12,900,900
	20～27歯	区分1	427	0	190,600	348,800	616,500	6,753,800
		区分2	742	0	171,900	320,700	547,700	14,125,500
		区分3	717	0	172,700	304,000	517,200	9,861,300
	28歯以上	区分4	564	0	172,000	297,700	566,500	10,710,200



性・年齢	現在歯数	区分の組み合わせ	p値
女性80歳	0～9歯	区分1 ⇔ 区分2	0.8973
		区分1 ⇔ 区分3	0.9874
		区分2 ⇔ 区分3	0.1737
	10～19歯	区分1 ⇔ 区分2	0.8984
		区分1 ⇔ 区分3	0.9730
		区分2 ⇔ 区分3	0.8965
	20～27歯	区分1 ⇔ 区分2	0.2476
		区分1 ⇔ 区分3	0.0391
		区分2 ⇔ 区分3	0.5736

区分 1: 欠損放置群
 区分 2: 一部補綴群
 区分 3: 補綴群
 区分 4: 現在歯数が 28 歯以上群

Steel-Dwass 検定

(2) 機能歯数 28 歯以上者を対象に現在歯数分類間の医科医療費の比較 : 分析 2

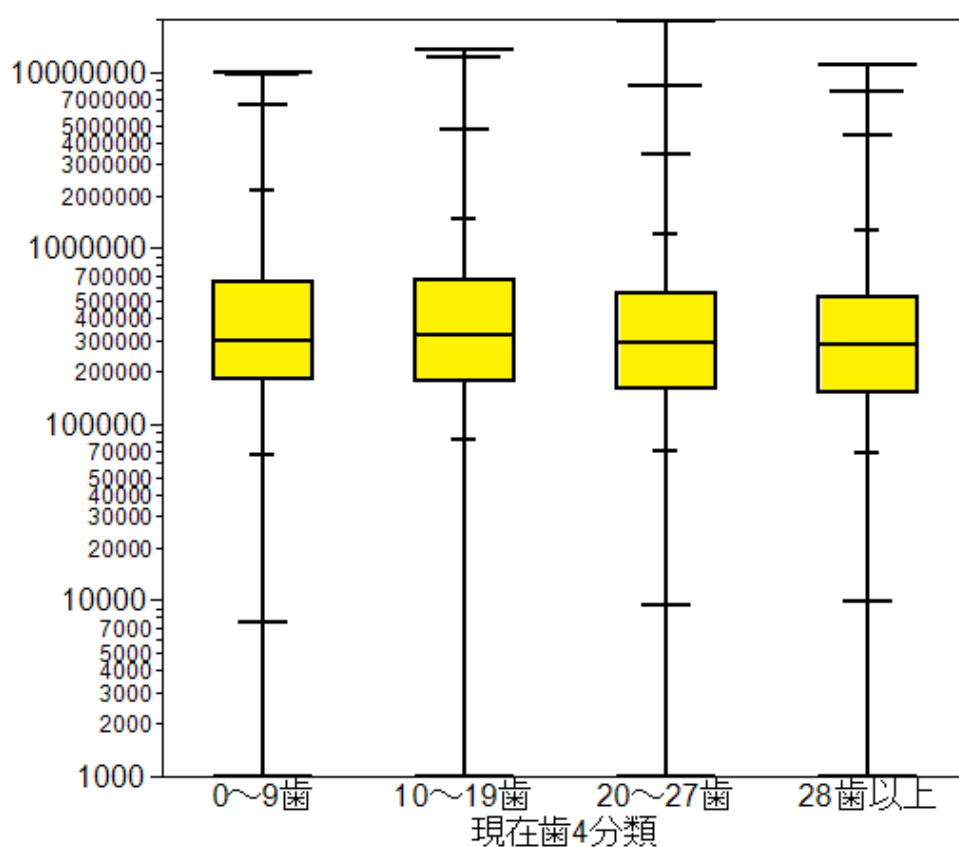
① 分析対象者数

性・年齢	現在歯数 分類	人数 (人)
男_75歳	0～9歯	216
	10～19歯	283
	20～27歯	684
	28歯以上	754
男_80歳	0～9歯	285
	10～19歯	273
	20～27歯	480
	28歯以上	461
女_75歳	0～9歯	187
	10～19歯	356
	20～27歯	1,169
	28歯以上	945
女_80歳	0～9歯	342
	10～19歯	368
	20～27歯	717
	28歯以上	564

②-1 機能歯数 28 歯以上者を対象に現在歯数分類間の医科医療費の比較(男性 75 歳)

すべての現在歯数分類間において、統計的に有意な差は認められなかった。28 歯以上の第1四分位値 150,500 円、中央値 283,400 円および第3四分位値 526,600 円が、それぞれ最も低い値を示した。

性・年齢	現在歯数 分類	人数 (人)	医科医療費(一人当たり/年間(円))				
			最小値	第1四分位値	中央値	第3四分位値	最大値
男_75歳	0～9歯	216	0	180,300	300,600	639,100	9,861,700
	10～19歯	283	0	177,900	322,100	655,800	13,308,300
	20～27歯	684	0	158,500	293,300	550,200	19,337,400
	28歯以上	754	0	150,500	283,400	526,600	11,031,000



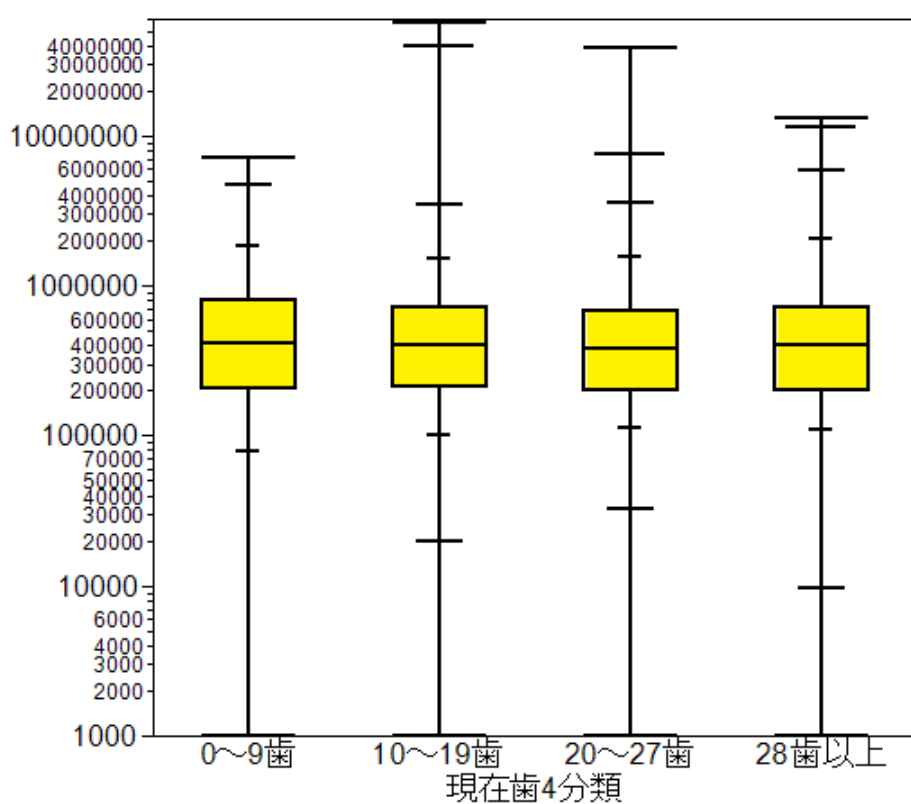
性・年齢	分類の組み合わせ	p値
男性75歳	0～9歯 ⇔ 10～19歯	0.9992
	0～9歯 ⇔ 20～27歯	0.4330
	0～9歯 ⇔ 28歯以上	0.3437
	10～19歯 ⇔ 20～27歯	0.2163
	10～19歯 ⇔ 28歯以上	0.1546
	20～27歯 ⇔ 28歯以上	0.9908

Steel-Dwass 検定

②-2 機能歯数 28 歯以上者を対象に現在歯数分類間の医科医療費の比較(男性 80 歳)

すべての現在歯数分類間において、統計的に有意な差は認められなかった。0～9 歯の中央値 415,600 円が、最も高い値を示した。

性・年齢	現在歯数 分類	人数 (人)	医科医療費(一人当たり/年間(円))				
			最小値	第 1 四分位値	中央値	第 3 四分位値	最大値
男_80歳	0～9歯	285	0	210,400	415,600	794,600	7,239,300
	10～19歯	273	0	211,900	397,600	710,200	56,131,500
	20～27歯	480	0	204,500	384,500	682,500	39,017,900
	28歯以上	461	0	202,400	399,100	727,600	13,213,100



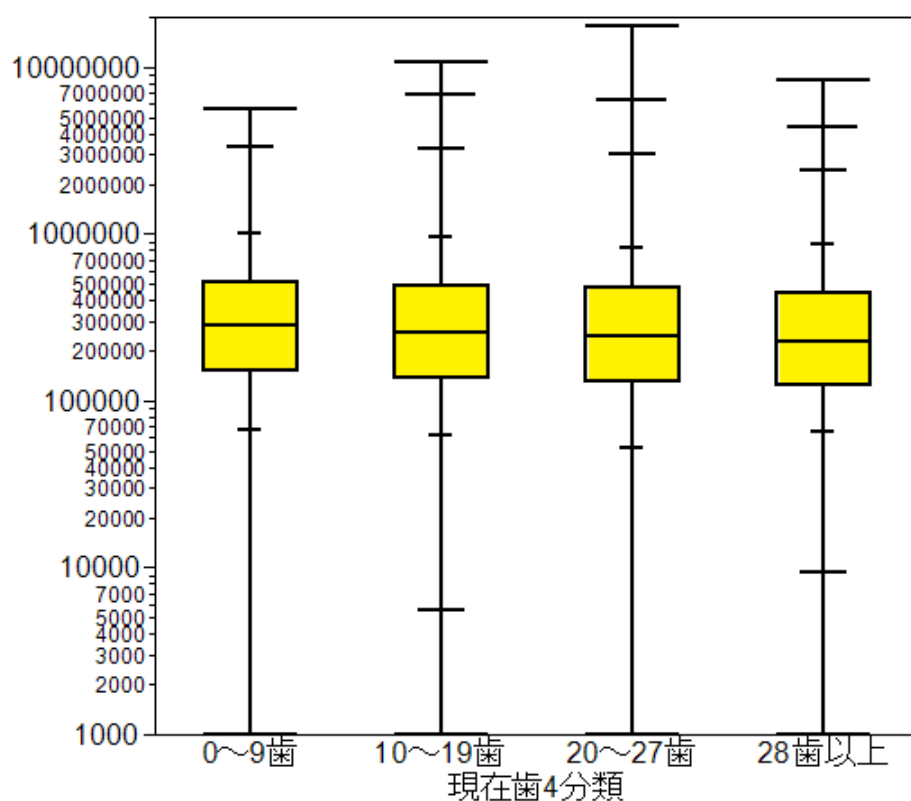
性・年齢	分類の組み合わせ	p値
男性80歳	0～9歯 ⇔ 10～19歯	0.9386
	0～9歯 ⇔ 20～27歯	0.8068
	0～9歯 ⇔ 28歯以上	0.9807
	10～19歯 ⇔ 20～27歯	0.9933
	10～19歯 ⇔ 28歯以上	0.9970
	20～27歯 ⇔ 28歯以上	0.9523

Steel-Dwass 検定

②-3 機能歯数 28 歯以上者を対象に現在歯数分類間の医科医療費の比較(女性 75 歳)

すべての現在歯数分類間において、統計的に有意な差は認められなかった。0～9 歯の中央値 283,800 円が、最も高い値を示した。28 歯以上の中央値 229,400 円が、最も低い値を示した。

性・年齢	現在歯数 分類	人数 (人)	医科医療費(一人当たり/年間(円))				
			最小値	第 1 四分位値	中央値	第 3 四分位値	最大値
女_75歳	0～9歯	187	0	152,800	283,800	510,700	5,688,700
	10～19歯	356	0	139,600	256,500	489,600	10,660,200
	20～27歯	1,169	0	130,800	246,700	479,500	17,674,000
	28歯以上	945	0	126,400	229,400	441,800	8,301,500



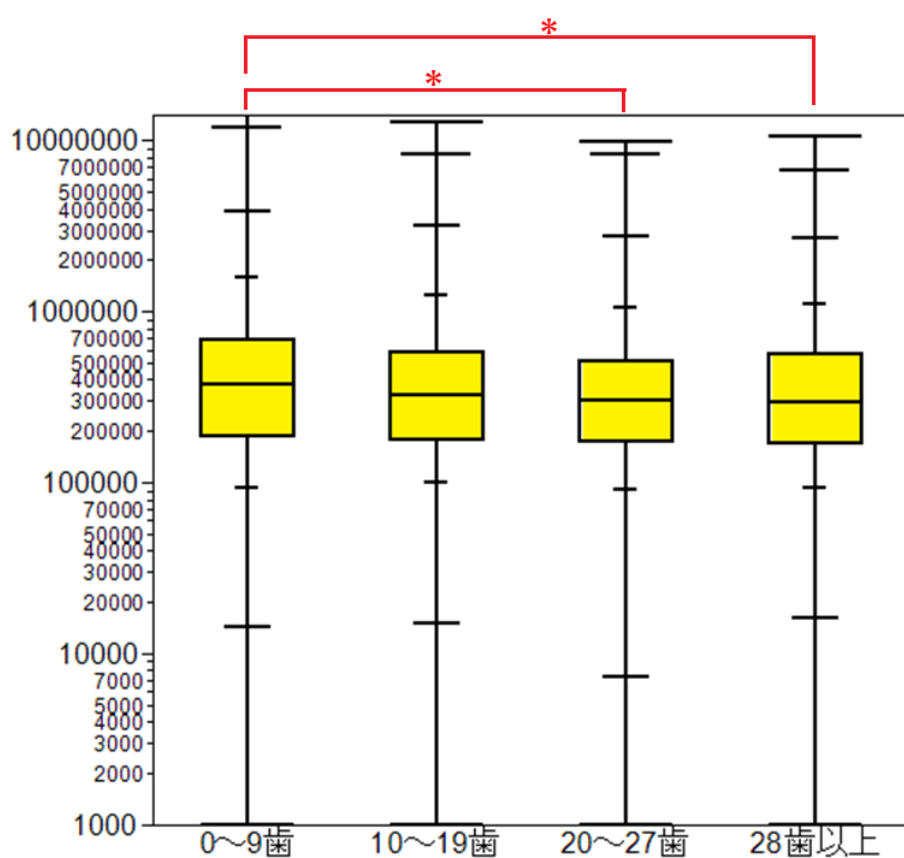
性・年齢	分類の組み合わせ	p値
女性75歳	0～9歯 ⇔ 10～19歯	0.7877
	0～9歯 ⇔ 20～27歯	0.2696
	0～9歯 ⇔ 28歯以上	0.0561
	10～19歯 ⇔ 20～27歯	0.7375
	10～19歯 ⇔ 28歯以上	0.2163
	20～27歯 ⇔ 28歯以上	0.5920

Steel-Dwass 検定

②-4 現能歯数 28 歯以上者を対象に現在歯数分類間の医科医療費の比較(女性 80 歳)

0～9 歯の医科医療費が 20～27 歯と 28 歯以上の医科医療費よりも、有意に高い結果となった。0～9 歯の中央値 377,900 円が、最も高い値を示した。28 歯以上の中央値 297,700 円が、最も低い値を示した。

性・年齢	現在歯数 分類	人数 (人)	医科医療費(一人当たり/年間(円))				
			最小値	第1四分位値	中央値	第3四分位値	最大値
女_80歳	0～9歯	342	0	189,000	377,900	693,200	14,140,200
	10～19歯	368	0	178,500	329,700	584,600	12,900,900
	20～27歯	717	0	172,700	304,000	517,200	9,861,300
	28歯以上	564	0	172,000	297,700	566,500	10,710,200



性・年齢	分類の組み合わせ	p値
女性80歳	0～9歯 ⇔ 10～19歯	0.2678
	0～9歯 ⇔ 20～27歯	0.0029
	0～9歯 ⇔ 28歯以上	0.0249
	10～19歯 ⇔ 20～27歯	0.4553
	10～19歯 ⇔ 28歯以上	0.7814
	20～27歯 ⇔ 28歯以上	0.9461

Steel-Dwass 検定

まとめ・考察

高齢者では歯を失っている者が多くみられる。歯の喪失は、食生活、栄養摂取などに影響を及ぼすことから全身の健康状態と関連する重要な因子として注目されている。そのため、歯の喪失は、歯科治療による歯科医療費を要するだけではなく、全身の健康への影響により、医科の医療費を増加させることが考えられる。今回、欠損放置している人と欠損補綴している人の医科医療費を比較する報告は少なく、欠損補綴が全身の健康に及ぼす影響について分析することを目的とした。

以下にその結果を表にまとめたものを記載する。

【分析 1】 現在歯数分類別に機能歯数区分 1～3 間の医科医療費の比較について

Steel-Dwass 検定

	0～9 歯	10～19 歯	20～27 歯
男性 75 歳	×	×	×
男性 80 歳	×	×	×
女性 75 歳	×	×	×
女性 80 歳	×	×	○*1

○:有意差あり ×:有意差なし

*1 : 「区分 1 が区分 3 よりも医科医療費が有意に高い」

男性 75、80 歳および女性 75 歳において、有意な差は認められなかった。女性 80 歳では、区分 1 が区分 3 よりも医科医療費が有意に高い結果となった。

男性 75 歳および女性 75、80 歳では、28 歯以上において区分 4 の中央値が低く、医科医療費が低い傾向を示した。男性 80 歳および女性 75 歳では、0～9 歯において区分 1 の中央値が高く、医科医療費が高い傾向を示した。また、男性 75、80 歳の 10～19 歯において区分 1 の中央値が高い傾向を示した。

【分析 2】 機能歯数 28 歯以上者を対象に現在歯数分類間の医科医療費の比較について

Steel-Dwass 検定

男性 75 歳	×
男性 80 歳	×
女性 75 歳	×
女性 80 歳	○*2

○:有意差あり ×:有意差なし

*2 : 「0～9 歯が 20～27 歯よりも医科医療費が有意に高い」

「0～9 歯が 28 歯以上よりも医科医療費が有意に高い」

男性 75、80 歳および女性 75 歳において、有意な差は認められなかった。女性 80 歳では、0～9 歯が 20～27 歯と 28 歯以上よりも、医科医療費が有意に高い結果となった。

男性 80 歳および女性 75、80 歳では、0～9 歯の中央値が高く、医科医療費が高い傾向を示した。男性 75 歳および女性 75、80 歳では、28 歯以上の中央値が低く、医療費が高い傾向を示した。

欠損歯列を放置した場合、咀嚼能率は低下し、全身への影響が考えられる。今回、分析 1 における 0～9 歯の区分 1 の対象人数が少なく、有意差が認められなかった。それにも関わらず、男性 80 歳と女性 75 歳の 0～9 歯と男性 75、80 歳の 10～19 歯において、欠損放置群の中央値が高くなるなど、現在歯数 19 歯以下での欠損放置群に対して医療費が高い傾向があると示唆された。また、女性 80 歳では、20～27 歯という比較的少数欠損群において、欠損放置群の方が補綴群よりも有意に医療費が高くなったことは興味深い。今後、数年後の医療や介護状況などで検証してみたい。

分析 2 では、女性 80 歳において現在歯数が少ないほど、医科医療費が高いことが有意に認められた。また、男性 80 歳および女性において 0～9 歯の医科医療費が高く、男性 75 歳および女性において 28 歯以上の医科医療費が低い傾向を示した。これは、歯の現在歯数が多い高齢者は、死亡リスクや身体機能の低下が少ない傾向があるという多くの報告と同様に医科医療費も、低い結果となることが示唆された。

今後、今回の横断研究ではなく、欠損歯列を放置した患者の 5 年後の医療費を比較するなどの縦断研究を行い、再検討を行う必要がある。

歯の健康と医療費に関する実態調査事業分析検討委員会

樋口	豊	公益社団法人香川県歯科医師会	理事(企画・調査部)
小西	法文	公益社団法人香川県歯科医師会	(企画・調査部)
大澤	崇	公益社団法人香川県歯科医師会	(企画・調査部)
田中	慎亮	公益社団法人香川県歯科医師会	(企画・調査部)
久保	大樹	公益社団法人香川県歯科医師会	(企画・調査部)
蓮井	義則	公益社団法人香川県歯科医師会	副会長
真鍋	芳樹	香川大学 名誉教授、公益社団法人香川県歯科医師会	外部顧問

令和6年度香川県8020運動推進特別事業
(香川県歯科医師会委託事業)

令和6年度
香川県
歯の健康と医療費に関する実態調査報告書

令和7年3月発行

公益社団法人 香川県歯科医師会
会長 豊嶋 健治

〒760-0020 香川県高松市錦町2丁目8番38号
TEL: 087-851-4965 FAX: 087-822-4948
Eメール: jimu@kashi.or.jp HP: <https://www.kashi.or.jp>

